

日 時 平成26年10月21日(火) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番 村上啓二	2番 工藤和行
3番 黒石ナナ子	4番 今井敬
5番 工藤禎子	6番 佐々木隆
7番 後藤秀憲	8番 大久保朝泰
9番 大溝雅昭	10番 工藤俊広
11番 工藤和子	12番 山田鋳一
13番 福士幸雄	14番 北山一衛
15番 中田博文	16番 村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長 高 樋 憲	副 市 長 玉 田 芙佐男
総 務 部 長 成 田 耕 作	企画財政部長 後 藤 善 弘
健康福祉部長兼 福祉事務所長 村 元 英 美	農林商工部長兼 バイオ技術センター所長 永 田 幸 男
建 設 部 長 工 藤 伸太郎	総 務 課 長 阿 保 正 一
人 事 課 長 沖 野 恵美子	管 財 課 長 藤 田 克 文
市民環境課長 木 川 一 雄	企 画 課 長 千 葉 毅
財 政 課 長 鈴 木 正 人	健康推進課長 木 村 斉 吾
高齢介護課長補佐 大 平 浩 倫	農 林 課 長 兼 バイオ技術センター次長 玉 田 純 一
商工観光課長 幾 田 良 一	農業委員会会長 佐 山 秀 夫
選挙管理委員会 委 員 長 乘 田 兼 雄	監 査 委 員 廣 瀬 左喜男
教 育 委 員 会 長 委 員 長 村 上 良 子	教 育 長 阿 保 淳 士
教 育 部 長 兼 市民文化会館長 奈良岡 和 保	学校教育課長 山 谷 博 文
社会教育課長兼 青少年相談センター所長 駒 井 昭 雄	文化スポーツ課長 成 田 秀 範

黒石病院
事業管理者 柿崎武光

黒石病院
事務局 長 沖野俊一

会議に付した事件の題目及び議事日程

平成26年第3回黒石市議会定例会議事日程 第2号

平成26年10月21日(火) 午前10時 開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事務局 長 長谷川 直 伸

次 長 三 上 亮 介

次長補佐兼議事係長 佐々木 聖 人

主 事 櫛 引 亮 兵

会議の顛末

午前10時02分 開議

◎議長(村上啓二) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第2号をもって進めます。

◎議長(村上啓二) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

9番大溝雅昭議員、12番山田鉦一議員を指名いたします。

◎議長(村上啓二) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次質問を許します。

3番黒石ナナ子議員の登壇を求めます。3番。

登壇

◎3番(黒石ナナ子) 皆様おはようございます。自民・公明クラブの黒石ナナ子でございます。

平成26年第3回黒石市議会定例会におかれまして、このたびもまたこのように一般質問をさせていただく機会を得て光栄に存じております。理事者側の御答弁、よろしくお願いいたします。

冒頭、このたび、広島県を直撃した集中豪雨でお亡くなりになった方々、また、甚大な被害を受けられた方々、先日の御嶽山の噴火にて尊い命を落とされました山を愛する老若男女の方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被害を受けられた広島県の皆様には1日も早い復興を心から願うものでございます。

時は流れ、季節はのどかな収穫時期を迎え、万山燃ゆるばかりの東北路、色づきを楽しむ秋の行楽シーズンを迎えております。悠久の歴史を秘める中野もみじ山は今が盛り、錦秋の中野もみじ山、ここ数年以来の美しい色づきで、内外からいらしたもみじ狩りのお客様を、色づきでおもてなしをしております。今も昔も変わりなく、めでる人々に感動を与えております。また、19日早朝と、昨日夕方6時、午後9時、ニュース前に中野もみじ山の色づきをNHKで放送されました。神社境内は市民の杜、川柳の社とも呼ばれ、210年前、京都から取り寄せ植樹した100種類のもみじ、本年は市制60周年記念樹として、町内会氏子一同によって20種類のもみじを植樹したことは、市民の皆様も周知のことと存じます。

自然環境の主役である中野川に落ちてかかる不動滝、この地を訪れた文人、墨客が風流を楽しみ、喜び、歴史に歌を残したところです。中野もみじは、当時から文化人の遊ぶ庭として知られ、今日にいたっております。

黒石観光振興の一節から、旅とは、遠くはるかなものに対する人間のあこがれの本能の一つかもしれません。生まれてこの方、まだ一度も行ったことのないところを旅をするということは、本当に大きな魅力があります。ありのままの山や川、湖や海、そういった自然は私たちの疲れた心を和らげ、あすへの希望を抱かせる大きな母体ではないでしょうか。直接その土地に行き、目で見、耳で聞き、口で味わう、その印象は生涯忘れることなく、心の底に奥深く思い出と残ることでございましょう。幸い、私たち黒石には自然環境、資源が満ちあふれております。旅人が空から、海から、陸から、どの角度から訪れようとも、私たち黒石市民は大人も子供も黒石らしいおもてなしができると私は確信しております。

それでは質問に入らせていただきます。

黒石市の里山観光振興について。

豪華客船ツアー受け入れについて。

ことし、青森港には数多くの豪華客船が寄港していることは、もう既に御存知のことと思います。代表格はダイヤモンドプリンセス、11万5,000トン、乗客定員数は2,674名。その多くは県内の観光地を観光バスで訪ねていることは新聞紙上でも報じられております。中でも、青森港から1時間30分の観光スポットが特に人気が高いようでございます。十和田湖や白神山地、酸ヶ湯温泉など文化・歴史や自然があふれる場所に特に人気が高いと言われております。そのような中で、黒石市はどのようなPR活動を展開しているのでしょうか。また、展開していくのでしょうか。

黒石市はふるさと、懐かしさにあふれた素晴らしい場所であると私は理解をしています。中町のこみせを始め、金平成園、松の湯、消防屯所などを周遊させる散策コースを確立し、来年度以降に向け、観光エージェントとタイアップして、観光黒石を周知させていく考えはないの

でしょうか。

外国からの観光客を受け入れるためには、外国語、英語などの案内・説明が最小限必要でございます。黒石市内に外国語表記の案内や説明がどれくらいあるでしょうか。まだまだ不足しているのが現状であると考えます。それに伴いボランティアガイドの増員を図る必要もあるかと思えます。国も、外国人観光客の受け入れに積極的になっている今こそ、その対応・対策が求められていると考えます。

海外からの黒石への観光客、第1番目はイギリスからのイザベラ・バード、140年前、黒石に1週間ほど逗留し、こみせ通りの環境を事細やかに紹介し、黒石の宿から人力車に揺られ、山で突き当たりの道を一路中野もみじ山へと、もみじを見たバードは、星の形をしたもみじと表現しております。こけむした石段、中野川、雪の降るように飛び散る滝のしぶき、鳥居や灯籠、ここは全てが魅力的であると「日本奥地紀行」に記されております。バードは黒石の地名を文学で世界に紹介してくれた黒石観光振興の草分けの人です。今、5つのテーマで演出している、中野もみじ山光のファンタジーの中には、清流とイザベラ・バード、清流三滝山の表情、流れ落ちる水しぶきをライトアップし、バードの追想をたどる、140年前のバードに思いをはせております。

そこで、質問の第1点目は、この機会を絶好のビジネスチャンスとして捉え、市としての外国人観光客の受け入れについてどのように考えておられるのか。

2つ目は、まだまだ不足していると思われる外国人向けの観光案内や説明と、観光パンフレットなどを作成するお考えはあるかどうかお知らせください。

3点目として、観光黒石を売り込むための具体的な方策をどのように考えておられるのかもお知らせください。

国民の祝日、山の日への対応についてでございます。

次に、平成28年8月11日が新たな国民の祝日として、山の日が制定されることは御理解のとおりでございます。意義は、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。私は何も山形地区だけの振興を考えているのではなく、市内全体を考えたときに、山形地区にその資源が多く存在していることに、市長を始め多くの市民の方々に理解して欲しいと考えることから述べさせていただきます。山の日制定に合わせて、黒石の里山としての黒森山や、中野もみじ山の有効活用をどのように考えているのかお知らせください。

黒森山は、かつて寺子屋が置かれ、県内各地からの子供たちは全寮制であり、当時は津軽きっての学問所の聖地でした。江戸時代から大正2年に至るまでおよそ200年のあいだ、学びの寺として知られておりました。最も多い時の生徒は120人とされておりまして。

そこで、質問の1点目は、今後、里山の有効活用について、黒森山や中野もみじ山をどのよ

うに再整備し、どのように再活用しようとしているのかお知らせください。

2点目は、市民を含めて多くの方々に利用してもらう方策をどのように考えているのか。

3つ目は、周辺に整備されているふるさと自然の道とどのように連携させ、運用しようとしているのかもあわせてお知らせください。財政が依然として厳しい状況は、十分理解していますが、黒石市の観光振興のため市長の勇気ある御英断に期待するものでございます。

中野もみじ山と黒森山の市の遺産登録についてでございます。中野もみじ山につきましては、ライトアップや夏もみじなどに加え、川床の実施など多くの対応をしていただき感謝を申し上げます。おかげをもちまして、秋の紅葉だけではなく通年で多くの観光客においでいただいております。大いににぎわいを見せております。

中野もみじの美しさは、かつて中野川にかかる不動滝は山岳信仰、修験者の聖地としてあがめられ、13代から16代にわたって別当が置かれたところでございます。今の山内宮司で31代目です。今なお里山の信仰として守り続けられている津軽三不動尊の巡礼の道は、碓ヶ関の古懸不動、上十川の長谷澤不動、中野の不動と交流し、遠い昔、占部が神職であったことがこのような形で里山の信仰が残されております。

近年、JRポスターに2度も全国、海外、主にアジアに紹介されました。このようなビジネスチャンス、観光振興の大きな波に乗っていただきたいと願っているものです。また、夏に開催したお茶会も好評を博していて、今後も関係者ともども継続していきたいと考えているところでございます。

また、黒森山は御住職の計らいでさまざまな整備が進み、たくさんの方々に親しまれている観光スポットでございます。このような魅力あふれる資源をさらにグレードアップされるための方策として、市は今後どのような取り組みを考えているのかお知らせください。

また、周辺地域と連動した観光拠点として、県内外に向けた情報発信をどのように考えているのかもお知らせください。

さらには、このたびの質問である黒石市独自の遺産登録としてはいかがでしょうか。

県観光連盟が協力している、中野もみじ山へのライトアップ、光のファンタジー、ことしも秋のテーマを織り込んで、夜のもみじ狩りに一役買っております。歴史や文学、古くからの里山の信仰などのプログラムを光で表現し、1,400年の歴史の森、中野もみじ山は今最高潮に達しております。ノーベル賞に輝いたLEDライトも、もみじ山を幻想の世界にいざなっており、ライトアップ事業に心から感謝を申し上げます。

青森リンゴの世界農業遺産の呼びかけについて。

呼びかけの現状についてと、市の対応について。

本年は国際家族農家年の年でございます。昨年6月、伝統的な農業や生物多様性の保全を目

的に、国際連合食糧農業機関が認定する世界重要農業遺産システム、通称「GIAHS」に新潟県の佐渡と石川県の能登が選ばれました。平成14年から始まったこの制度で、先進国の地域からの認定は我が国が初めてのことです。里山海山を中心に守られてきた能登の持続的な農林水産業と一体的に維持、保全されてきた伝統的な農業文化の姿が認められ、能登の里山里海が世界農業遺産に認定されたものです。

このたび、他の行政から、青森リンゴを世界農業遺産登録との呼びかけがございましたが、自然環境資源とともに育てられてきた青森リンゴ。特に生産歴史の古い黒石から、世界農業遺産登録に大いに賛成するものの1人でございます。

黒石市は冷涼な気候を利用した黒石リンゴの一大産地として、おいしいリンゴの代名詞であり、多くのファンを持っているものの1つでございます。これまで多くの先覚者がリンゴ栽培や米の生産に尽力し、リンゴ栽培においては、防除体制の確立や品種改良を加え、さらには剪定技術への研鑽を積み、確固たる黒石リンゴの地位を確立しております。このような中において、黒石のブランドとしていま一つ知名度が低いように感じられるのは私だけでしょうか。皇室への献上リンゴなどでもわかるように、黒石リンゴは非常に高いブランド力と知名度を誇っています。先月25日に御訪問された天皇皇后両陛下も、真っ先に黒石観光りんご園を訪れ、リンゴのもぎ取り体験をし、りんご試験場を訪れたことから理解できるとおり、黒石リンゴは今こそ、国内はもとより世界に向けて情報発信する必要があります。また、リンゴとあわせて黒石米をこれを絶好の機会と捉え、相乗効果をもたらす黒石の宝物であり、特産品でございます。

また、黒石市は全国的にも珍しいリンゴ研究機関、農業機関を有している好条件の位置にあります。これらの好条件を最大限に生かし、全国に向けた情報発信をどのように考えているのでしょうか。

黒石地方で最も風流で景勝の地といわれるのは、美しい滝と紅葉で有名な中野神社の境内であると思います。その鳥居をくぐり、境内へ下りる石段の途中左側に、豊かな口ひげと胸元に届く長い顎ひげを生やした痩せて目の鋭い老人の胸像が、高い台座に鎮座しているのにお気づきでしょうか。私設知事とも、ライオンとも、雷様ともいわれた明治・大正の大政治家、竹内清明でございます。津軽のライオン竹内清明は、青森の原敬と言われ、1886年、明治19年、当時の郡書記を辞職し、現在りんご試験場の所に12ヘクタールのリンゴ園、広農園を経営して、リンゴ産業の発展に尽力しました。1898年、明治31年、下北半島の宿野辺に農場を開き、福民町内を創設し、半島山間部に稲作を伝えました。竹内清明は1887年、明治20年から山形村の戸長や村長となって村勢の発展に尽くしましたが、何より村の基本財産の造成に努め、その中心にリンゴ栽培を勧め、国からの土地払い下げを積極的に行い、園地は村全体で400ヘクタールに

及びました。そして、さらには販売方法を改良して山形村信用販売購買利用組合を結成して、地元民の利益を守ったと黒石人物伝に記載されております。

御提案ではございますが、このような歴史的人物の功績をたたえとともに、黒石市は歴史的、技術的なリンゴ栽培の集積地であることから、青森リンゴ、特に黒石リンゴの生産地をリンゴの聖地となるようなお考えはできないものでしょうか。リンゴ世界遺産の呼びかけの五所川原農業高校は、かつて黒石に最初置かれた高校です。呼びかけが黒石でなかったことは残念でございますが、さきにも述べましたように、リンゴ世界遺産登録、呼びかけ、市の対応と現状についてお知らせください。

以上で壇上からの質問を終わります。誠意ある御答弁をお願いいたします。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 黒石ナナ子議員にお答えいたします。私からは、青森リンゴの世界遺産の呼びかけについて答弁させていただきます。

さきほど、議員も申し上げておりましたけれども、世界農業遺産「G I A H S」は、発展途上国において伝統的な農業を営む地域を失われていることから、その伝統的な農業や農法を核として、生物多様性、優れた景観等が一体となった世界的に重要な農業システムの保全と持続的な利用を図るために「F A O」国連食糧農業機関が認定しているものであります。

ことしの5月、「リンゴでG I A H S研究会」会長でもあります青森県立五所川原農林高等学校長が来庁し、その参加協力要請があり、賛同の意を伝えておりますが、市といたしましては市民への呼びかけはまだ行っておりません。

次に、今後の取り組みについてであります。認定に向けて関係者や地域住民の合意形成はもとより、認定後は持続的な活動が不可欠でありますので、まずはりんご農家及び地域住民への世界農業遺産の啓蒙を図り、青森リンゴの生産地域全体での取り組みであることから、青森県の指導・調整のもと、青森県含め関係市町村や青森県りんご協会など歩調を合わせ、全県的な動きで展開すべきものだと考えております。私からは以上であります。

降壇

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、豪華客船ツアーの受け入れに関する御質問と、山の日に関連する御質問についてお答えいたします。

まず、豪華客船ツアーの受け入れについての御質問でございますが、まず当市の対応でござ

いますが、今年度の豪華客船ツアー客に対しましては、弘前圏域定住自立圏観光推進協議会において、8月2日から10月4日までの間で、JR東日本弘前駅構内に臨時観光案内所を6回開設し、当市も含め近隣市町村の観光パンフレットを配布、紹介などを実施するとともに、当客船の対応窓口となっている県担当課へ、中町こみせ通りなどの観光施設情報を提供しております。

あとですね、客船ではございませんが、今月から来月にかけて中国の航空会社による台湾からの秋季のプログラムチャーター便が青森空港に入港することとなっていることから、チャーター便利用客に対するお出迎え活動にも、今月末、当市のゆるキャラと一緒に参画することとしております。

次に、観光案内サインのことでございますが、外国人対応の案内板等は残念ながらまだ整備されておきませんが、パンフレットにつきましては近隣市町村と連携し、日本語・英語・韓国語・中国語の広域観光パンフレットを作成しております。

次に、今後の受け入れについてでございますが、まずはオプションツアーに組み込んでもらうことが大変重要でございますので、県に相談するなど、情報提供や対応ができるような態勢づくりを今後も検討してまいりたいと思います。ちなみに、今月、県からの依頼で、まず10月27日に台湾のメディアが中野もみじ山においでになって、これに対応することとしております。翌28日には、中国の旅行会社とメディアがこれもまたおいでになって、これにも対応することになっております。

次に、里山の観光と、山の日の御質問についてでございます。里山の活用については昨年の富士山の世界遺産登録を始め、山の日の開始を2年後に控え、今後、市民の山への関心や民間団体のイベント開催の機運がさらに高まることを、市としても期待しているところでございます。市ではこれまで、黒森山ウォーキングセンターやそれにとりまうハイキングコースを整備してございますが、これまでもそのウォーキングセンターでの青少年の森開きを始め、お山のおもしろ学校や民間団体主催の散策、トレッキングイベント、他にはマウンテンバイクの大会など、里山を舞台とした自然に親しむイベントはたくさん開催されております。市としても、そのような活動と今後も連携しながら、里山の魅力の情報発信に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは、中野もみじ山と黒森山の市の遺産登録についてお答えします。

中野もみじ山の一角にある中野神社は、津軽三不動の1つとして知られております。また、黒森山の一角にある浄仙寺は、江戸時代には寺子屋であったという歴史のほか、郷土が生んだ

文人たちの文学碑を建てられたことから文学の森と称され、いずれも数多くの観光客が訪れている所です。その敷地内には、県の天然記念物を始め、市の天然記念物及び有形文化財が点在しておりますが、このほかにも貴重な物件が存在する可能性もありますので、今後も調査を行うとともに、貴重な物件があれば所有者と協議し、黒石市文化財保護審議会に諮問したいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。3番。

◎3番（黒石ナナ子） 御答弁ありがとうございました。

豪華客船のほうのオプションツアーのほう、今月27日29日でしたか、中国と台湾のほうからいらっしゃるといことで、実は私ちょうど石段の所でコーヒー出して3週間ぐらいやってるんですけども、きのうも台湾の団体客と1人の旅人、男性ですけど、日本人じゃないなと思ってお声をかけたら台湾の方でした。何か調べに来ているような感じで、やっぱり中野のようなあの雰囲気は非常に小ぢんまりとしてるんですけど、外国人にとってはたまらない魅力のようです。非常に広いところではないんですけども、小ぢんまりとして落ち着くような感じとおっしゃってます。教育部長さんがおっしゃいましたように、市の登録と私おっしゃいました。これはね、文化的なものがいっぱいあるので、例えば中野は200年のもみの木が2本とか、もみじの木が200年以上のものが5本とか、杉の木が500年、600年、700年と、それから蛇行して流れる中野川、流れ落ちる昔からのあの不動滝、こういう自然の環境が整っているのも昔から山岳信仰の対象でもあったらと私思います。その1,400年、伝統的であり、体系が整っており、そして生命力があったので1400年の間、中野もみじ山、中野はすごいと言ってますので、その中野もみじ山と黒森山の文学の森ですね、なんとかこの2つの山は、私たちはまだあれなんですけど、これから10年、20年、50年、100年と、余りにも開発されてしまう前にある程度保護しながら、自然を守りながら登録していただければいいなと思っております。

そして、青森リンゴ、黒石リンゴのこと私先ほどおっしゃいました。市長さんのほうからは御答弁本当にありがとうございます。私は、この青森リンゴ世界農業遺産というこの呼びかけもそうなんですけど、なぜ私が賛成したかといいますと、黒石はリンゴの、やっぱり竹内清明さんが国会議員であったときにりんご試験場を誘致し、そして福民のあの地区を拓き、400ヘクタールのリンゴ園を作ったというのが原点です。ですから私は、りんご試験場もあるし、リンゴ剪定の技術も天下一品です。そういう意味で、私は黒石こそリンゴの聖地にしたらどうかということ、今市長さんのほうから、いろんなリンゴ団体、各団体とも協議した上でないと市で決められることではないですが、市民の1人として私はやっぱり黒石は歴史が古いので、リ

ンゴとしての、だから世界農業遺産の青森リンゴのリンゴ経営者全員のそういう意味を心から思いまして、リンゴ技術は最高であると思ひまして賛成する1人でございます。先ほど私、五所川原農業高校と申しましたが、農林高校でございまして、明治の頃本当の名前は南津軽郡農事講習所、北津軽郡農事講習所というそれが合併して、つまり向こうのほうに行かれたみたいで。そういうこともございまして、呼びかけが五所川原ではございましたけれども、やっぱり黒石も関係があるなと思ひまして、賛成したところでございます。

(「質問は」と呼ぶ者あり)

◎3番(黒石ナナ子) 質問、はい。

黒森山、中野もみじ山、遺産登録に一步でも進んでいかれるのかどうか、お聞きします。

リンゴの世界農業遺産の件につきましては、市長さんからいろいろと御答弁がございましたので、ありがとうございます。

じゃあ、1つだけそこをお聞きしたいと思ひます。

◎議長(村上啓二) 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長(奈良岡和保) 御提案の中野もみじ山、そして黒森山、いろいろと貴重な文化財がたくさんある所です。これをもみじ山とかっていう大きなくくりでというお話なんでしょうけども、まずは所有者の意向等をお伺いして検討してまいりたいということでございます。以上です。

◎議長(村上啓二) 以上で、3番黒石ナナ子議員の一般質問を終わります。

◎議長(村上啓二) 次に、10番工藤俊広議員の登壇を求めます。10番。

登壇

◎10番(工藤俊広) おはようございます。自民・公明クラブの工藤俊広でございます。

第3回での定例会での一般質問をさせていただきます。

初めに、青森リンゴの世界農業遺産登録に対する質問をさせていただきます。

世界農業遺産「G I A H S」とはイタリア、ローマに本部がある国際連合食糧農業機関が認定を行っている取り組みであります。ユネスコの世界遺産は歴史的建造物や遺跡などの不動産を保護するのに対し、「G I A H S」は次世代に継承すべき伝統的農業や文化、景観の保全と持続的な利用を図ることを目的としています。日本では、5つの地域が7月現在で認定されております。代表的なのがトキと共生する佐渡の里山が知られていると思ひます。青森県でも青森リンゴで世界農業遺産を目指す取り組みが始まっております。昨年12月に五所川原農林高校に協議会事務局を設置し、佐藤校長が「リンゴでG I A H S研究会」会長として2年後の農業遺産登録定を目指しております。世界農業遺産の認定のためには、オリンピック招致と同様で

地域の盛り上がりがないければ到底認定されるものではありません。各自治体にも協力を呼びかけているようであります。

そこで、リンゴで世界農業遺産認定に対する当市の現状認識はどのようなものか、まずお聞きしたいと思います。

私は「G I A H S 研究会」会長の佐藤先生ともお会いし、世界農業遺産への登録に対する熱い思いを伺ってまいりました。要約すると、素晴らしいリンゴの生産文化の継承が、人口減少と若者の農業離れにより途絶えてしまうことを非常に心配しており、何とかして次世代を担う若者にリンゴ生産の誇りと希望を持てるようになって欲しいと、世界農業遺産登録に対する思いを語っておられました。世界農業遺産登録の取り組みは、全ての自治体が一体となった取り組みが求められます。当市の今後の取り組みを、お聞きしたいと思います。

次に、音楽での地域活性化についてお聞きいたします。

近年、若い世代の音楽活動が活発になってきていると感じています。音楽をとおして市内外の若者が黒石市の活性化に大きく貢献しています。代表的な活動に、虹の湖でのロックフェスや、こみせんの蔵を使った蔵ふえす、黒石よされの前夜祭としてよされロックフェス、ふるさと元気まつりなど本当に頑張ってくれていると思います。そこでまず、音楽活動で地域活性化に貢献している若者達の活動状況と、当市のこれまでの支援状況を伺いたいと思います。

次に、地域おこし協力隊についてお聞きいたします。

黒石の活性化にとって若い世代の定住促進策は必要不可欠であります。黒石の課題としても優先度の高い問題であり、若者に対する支援策の強化が必要と考えます。前回の一般質問で紹介にとどめた地域おこし協力隊という事業があります。総務省の支援策で、都市地域から生活の拠点を移し地域おこし協力隊として活動することで、隊員1人当たり400万を上限として特別交付税措置がされるというものであります。定住促進と活性化を期待する黒石市にとって活用できる事業であると思います。実際に音楽活動をしているバンドのメンバーが黒石に移り住むという話を伺いました。この事業を活用し、音楽で黒石市の活性化に協力できる若者を、都市部地域から定住化を目的に募集をしてはどうかと思います。地域おこし協力隊の事業化についてをお聞きいたします。

最後に、健康増進におけるピロリ菌対策について伺います。

ピロリ菌の除去に保険が適用されることになりました。これは日本人に胃がんが多く年間約5万人が亡くなるといわれ、ピロリ菌と胃がんとの関係性が証明された結果であると考えます。当市におけるピロリ菌と胃がんの関係性について、どのような認識を持っているのか。また、死亡原因ががんによる死亡率はどの位か。また、がんの中でも胃がんの占める割合はどのくらいか、まずお聞きしたいと思います。

次に、胃がんによるリスク軽減に大きな効果が期待されるピロリ菌の除菌であります、当市の除菌状況をお聞きしたいと思います。

次に、胃がん予防・健康増進に効果があるピロリ菌の除菌は、広く知ってもらうことが大事だと思いますが、当市の広報活動の状況をお聞かせください。

最後に、ピロリ菌の除菌は保険適用となっておりますが、ピロリ菌の発見をする検査は、症状のない検査は保険適用になりません。予算をかけても、健康診断の際にピロリ菌検査も加えて実施していただければと思いますが、他市の実施状況と当市の考えをお聞かせいただきたいとします。

以上で壇上からの質問を終わります。御清聴ありがとうございます。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤俊広議員にお答えいたします。私からは、音楽での地域活性化についての中の、若者の活動支援策についての状況と市としての考え方についてお答え申し上げます。

黒石よされ、ふるさと元気祭りなどの音楽ライブが含まれるイベントにつきましては、それぞれのイベント全体の運営に対し、黒石よされには985万円、ふるさと元気祭りには30万円を助成しておりますが、音楽イベント単体や若者の音楽活動に対する直接の支援は、実施していません。市としての考え方でありましても、青年活動全般につきましては、若者の定住対策、Uターン・Iターン対策の手法の一つとして、議員の提言の制度も含め、国の各種制度を活用できないか調査、検討するとともに、音楽活動に限定いたしますと、まずは発表の機会の提供の場の拡充に努めたいと考えております。先日も、市長室におきまして、虹の湖ロックフェスティバルの関係者の方々との意見交換もいたしまして、ああいう若い方々が元気に市内で活動できる環境づくりというものを、これからも市としてもいろんな面で、各方面から検討しながら少しでも実効性のあるような事業をつくり上げるべく、これから努力していきたいと考えております。私からは以上です。

降壇

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、地域おこし協力隊についてお答えをいたします。

地域おこし協力隊は、先ほど工藤議員が述べられましたように、地方自治体が都市住民を受け入れて委嘱しまして、地域おこし活動の支援、そして農林漁業の応援、そのほか住民の生活支援など、地域協力活動に従事してもらいながら、その定住・定着を図り、地域の活性化に貢献する制度でございます。具体的には、隊員1人につき400万円上限として、募集経費として自

治体1団体当たり200万円上限と、そういう内容の特別交付税による財政支援が国からございますが、ただ3年を超える場合は、その支援が受けられないということになってございます。それと、条件がございまして、市内において移動した方、市内での移動ですね。それから、委嘱を受ける前に既に都会などから定住・定着している方については、原則として該当になりません。市といたしましては、ただいま市長が申し上げましたように、若者の定住対策が非常に大きな鍵となってきております。そういう中で、本制度を含めまして、ほかにも活用できる制度がないかどうか、現在情報収集にいろいろ努めてございます、そういったまず情報収集に努めながら、国の新しい動きをですね、十分細かいところまで見極めて、当市でその具体的な方法も含め有効活用を図っていくよう努めてまいる所存でございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは、健康増進におけるピロリ菌対策についてお答えをします。

まず、胃がんとピロリ菌の関係について市の認識はということでございますが、日本消化器学会の報告によりますと、胃潰瘍の70から80%、十二指腸潰瘍の約90%の方にピロリ菌がかかっていると考えられております。ピロリ菌の感染者全員が胃がんになるわけではないことから、塩分や食事内容、体質等さまざまな要因とピロリ菌が相まって、胃がんの発症しやすい環境をつくるものというふうに認識しております。

次に、黒石市のがんによる死亡率と死亡者数ということですが、平成24年度1年間で黒石市で亡くなられた方は510人でございます。その中で、がんによる死亡者数は131人、約26%です。そのうち、胃がんで死亡した方は28人で、がんの死亡全体の21%を占めております。

ピロリ菌の除菌の状況ですけれども、民間の病院についてはちょっと把握はできないんですが、黒石病院でピロリ菌があるというふうに検査の結果、検査というんですかね。ピロリ菌の検査そのものは、慢性胃炎があるとか、そういう内視鏡で調べた結果ピロリ菌があるというふうな形で検査するわけですけども、平成24年度は116人、平成25年度は138人検査をしております。

ピロリ菌に関係した広報活動ということですが、従来あまり積極的な広報活動は実施しておりませんでした。ただ、厚生労働省で2013年から内視鏡で慢性胃炎と診断された人の除菌治療が保険適用となったことから、今後は検診及び除菌の内容等について市民の方に周知してまいりたいというふうに考えております。

近隣の助成についてですけれども、10市の中で助成をしているところですね、検査の助成をしているところ、弘前市、つがる市、2市が助成しております。それから近隣の市町村では大鱈町、西目屋村が実施しております。黒石市でピロリ菌の検査の助成等はできないかというこ

とでございますけれども、本市においても胃がん発生のリスクを低減させる効果が大きい。ピロリ菌の除菌については、確かに必要だというふうには考えております。ただ、助成については費用もかかることから慎重に検討したいというふうに思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、世界農業遺産登録に関する御質問と、音楽での地域活性化について、活動の状況についての御質問、2点についてお答えしたいと思います。

まず、世界農業遺産登録についてでございますが、市のかかわり方につきましては、黒石ナナ子議員に市長が答弁したとおりでございます。

次に、今後の取り組みについてであります。まず農業遺産の申請に当たってはハードルが非常に高いものがございます。まず農薬による病虫害防除のような近代農法では承認されないなど、さまざま今後検討していかなければならない課題がございます。これには申請に当たっては県の意見書が必要であるとか、また、農林水産省の承認が必要であるとか、非常に市単独ではなかなか取り組めないようなものでございますので、先ほど答弁されたとおり、青森県の指導調整のもと、関係市町村とともに全県的に運動を展開すべきものと考えております。

次に、若者の音楽イベントに係る出演団体と動員数でございますが、ことしの夏に開催された若者による音楽イベントをそれぞれ主催者に確認したところ、まず虹の湖ロックフェスティバルでは悪天候の中ではありましたが、20団体が出演し、動員数は870人、黒石よされロックフェスでは12団体が出演し、前夜祭全体での入込みは5,500人、次にふるさと元気まつりではステージイベントにおいて1団体が出演し、元気まつり全体としての入込みは2万人だと伺っております。また、中町の音蔵こみせんにおいて開催されている蔵ふえすについては、昨年2月からこれまで19回開催されており、1回あたりの平均で7団体が出演し、50人程の動員とのことでございます。以上であります。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。10番。

◎10番（工藤俊広） 答弁ありがとうございました。

それでは、まず農業遺産の登録のほうから、現状認識について、今の答弁、ナナ子さんへの答弁あわせてお聞きしました。賛同はしていますと、だけれどもハードルが高い、ですので当市が主体として単独で動くというようなことはなかなか厳しいですねと。県の指導のもとに歩調をあわせて当市としては対応していきたいという現状での認識であると。ただその世界農業

遺産「G I A H S」、この考え方には賛同はしているということによろしいでしょうか。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） はい、趣旨に賛同しておりますが、申請自体はなかなか単独では厳しいと考えております。今月末になりますが、県主催で研修会、いわゆる勉強会を予定しております、これに参加する予定でおります。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） はい、ありがとうございます。気持ちはすごく同じ気持ちだと思います。できるのであれば農業遺産に持っていきたいなという気持ちはあるけれども、現状として農業が使われているそういった近代農法もある。1つの地域に限定してということよりもリンゴ生産全体にかかわってくることである、さまざま国・県のハードルもあるというふうにお聞きしております。私もそうだなと、簡単な取り組みではないなというふうな認識で、そこは一緒だというふうに思うわけですが、例えば、東京オリンピック招致のときもですが、「そったことやったってどうすんだして」という最初の空気はあったと思うんですね。またちょっと例え違うかもわかりませんが、焼きそばでまちおこしという声も始まったときも、焼きそばでっていうそういう空気はあったと思うんですね。でもそこを進めていくみんなの力というか、そこを行政として後押ししていきたいなというそういう立場に私としてはなっていければいいなというふうな気持ちでいます。その辺どうでしょうか。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 議員おっしゃることはよく理解できます。単体でまず申請できるのかどうか、「G I A H S」の基準に合致できるのかどうか、これは県がこうした取り組みを全く否定しているわけではございませんので、今後も一緒に勉強を重ねていって、申請にこぎ着けるかどうかを検討していくということだと理解しております。市民に向けても、いわゆるこの世界農業遺産というのはどういうものなのかということで、ユネスコの世界遺産とはちょっと違いますので、この内容について何らかの周知できる方法がないかということで、とりあえず11月に開催される黒石りんごまつりにおいて何らかのスペース、周知するためのスペースを設けたいと、今検討しております。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） 現状認識については、私はここで主体的に黒石っていう、このリンゴ青森県の中においても黒石っていう位置づけは先ほどナナ子さんもおっしゃっていましたが、天皇皇后がことし黒石においでいただいたことも、リンゴがあったらこそだというふうに思うわけであります。そういった、タイムリーと言っては大変失礼かもしれませんが、そういったときに今こういう取り組みが始まっていると。そういうときに黒石としてもうちよっ

と主体性のある現状認識になっていただければなという思いで今回こういった取り組みに対しての質問も今しているわけですが、また、私の公明党としても、この農業遺産にかける取り組みは主体性を持って、校長のところにもお会いしにいきましたし、今政務官である参議院議員とも一緒に行って、国の考えもお伝えしました。当初はもっと早い段階で、この農業遺産に向けて指導させたい思いはあったようでありましたけれども、事務局を設置しなければいけないとか、地元の盛り上がりがないければ、国もなかなかそれは乗れないよねとか、そういったいろいろアドバイスもしながら農水省のそういった考えも伝えながら今この取り組みにいたっている状況であります。

次に、今後の取り組みについてという部分でありますけれども、今、部長のほうからりんごまつりで、この農業遺産とはなんぞやということの周知を皆さんに図っていくと、そういった考えを今検討しているということでもありますけれども、もうちょっと具体的に「G I A H S」に関しての広報スペースだけということでしょうか。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） まだ、具体的にどういう形で広報するかまでは決めておりませんが、非常に東南アジアが非常にこの「G I A H S」に、特に中国が多いと。国内でも静岡の茶葉場とか、いわゆる牧畜でも、草原の維持と牧畜の持続的農業とか、あと佐渡のトキと共生する佐渡の里山とかですね、国内でも四、五カ所もう認定されているところもありますので、どういったものが世界農業遺産なのかということに関して広報できるのかどうかちょっと検討したいなと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） 私の希望としては、広報、展示、そういったものはそれはそれとしてよしとしますけれども、このりんご農業遺産登録を目指す会長の佐藤校長をこのりんごまつりにお呼びいただいて、例えば2階の大会議室が、その開催期間中もし空きがあるのであれば、そこでこの思いを語っていただくようなそういう企画は組めないものかというふうに思ったりもするんですけどもいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） りんごまつりはもう既にあと1カ月近くに迫っておりますので、まず相手の日程等もございまして、その辺も含めて少しお時間をいただきたいと思います。ただ、「G I A H S」の認定は2年に1回でございまして、ちょっと息の長い勉強会等が必要かと思えます。じっくり慎重に検討して、果たして該当するのかどうかということも含めて考えていきたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） ありがとうございます。じっくり慎重にならざるを得ない気持ちもわかります。でもっていうところをやはり言いたいわけでありまして、先が見えてこれは大丈夫だっというものに乗っかっていくというのは、これはある意味当然といえば当然であります。そこを突き破っていくところに非常に労力もかかります。メンタルの面でも、こったことやっていんだべかっていう、そういう気持ちになるのもわかります。でも、黒石の宝であるリンゴっという部分においては、できない別にしてでも、今後の取り組みとしてちょっとランクを上げていただければなという思いはあります。そういったところで、りんごまつり、今、近々1カ月後にあるわけですがけれども、今現在この認定に向けて署名活動を一生懸命やっています。まだまだ周知も図られていませんし、新聞をよく見ている人で、今そういう取り組みが始まっているのかなというくらいの認識だと思うわけです。ですから、黒石市はこの登録に向けて賛同するというふうに先ほど表明してあったわけでありますので、せめて署名用紙、各展示ブースみたいなものを設けた先に置いていただいて、強制ではなくても、黒石としてもこれを集めるくらいのはやっていただけるのではないかなというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 署名運動についても、まずは農業遺産といは何かというのをまず諮って、市民に理解していただいてからというふうに考えております。やるかやらないかにつきましては、少し検討させていただきたいと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） はい、ありがとうございます。2年に1回の登録という期間があるわけですがけれども、2年に1回で2年後を目指しているわけで、ことし盛り上がらなければ来年はもっと盛り上がらないというふうに思うわけです。これじわじわじわじわといくものだと思うので、2年後を目指して今現状進めている。実は今、佐藤校長が退職だわけですよ。そういうところで思いをここに傾注して取り組んでいくと、そういう短期決戦の決意もあるような、そういう状況でもあると思っておりますので、その辺いろんな状況判断あると思っておりますけれども、当市としてできるできない以前に、リンゴというものの価値を、また誇りを持てる1つの取り組みだと思っておりますので、この件についてひとつ近々のりんごまつりに期待をいたします。答弁はいいりません。

それでは次に、音楽での地域活性化について、活動の状況と支援状況をお聞きいたしました。結構な若いメンバーが黒石でのいろんなイベントに対して音楽で参加し、そして中心になるイベントにもなっているものも相当あるなというふうに思っております。先ほど市長のほうからロックフェスのメンバーとも語り合ったというお話でありましたけれども、よされロック

フェスのとき、市長と私と同席で一緒に鑑賞していました。そのときのロックフェスのメンバーと話したことで、何か印象に残っていることとかありましたらお聞かせいただければと思いますけど。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 工藤議員の再質問にお答えいたします。

工藤議員もあの場所におられましたので、すごい若い人のやる気、そしてまたああいう若い方々の音楽を通じたまちおこしというのは可能なような感じを受けたというふうと一緒に感じております。それを踏まえまして、先般、虹の湖ロックフェスティバルの方々との意見交換もしまして、そうしましたらいろいろなお話もお聞きさせていただきました。先般、宮城県の仙台市内で定禅寺でのジャズフェスティバルですか、それが市内で約50箇所ぐらいのステージで約700名ぐらいでしたかな、そういう関係者がコンサートを行って、まちを活性化させてるというお話もお聞きしまして、私自身は、先般もロックフェスティバルでの関係者の方々ともお話したときに、黒石もまずそのぐらいのイベントに持って行ければ面白いなという話をして、それをもしやるとなればできるのかと話しましたら、可能だということでありました。ただ、限られた財政の中でのいろいろな事業をこれから計画していくのに際して、ただ1つ心強いのは、あの若い、今回の虹の湖ロックフェスティバルの方々も行政に対してそれほど多くを望んでいないと。自分たちでやれることはどんどんやっていくんだという気持ち強いの方々でありましたので、これからは市内でまた同じようなイベントを行う際においてもですね、行政がどうのこうのではなく、ある程度行政が方向性を出した際においては、若い人たちが「よし自分たちで市の考え方に賛同したなら手伝ってやろう」という、そういう雰囲気がつくりだせるんではないかなという感じをいたしておりまして、これから担当部とですね、その辺を煮詰め、早い機会にちょっと新しい取り組みを、県内でもですね、新しい取り組みを目指していければなどというふうに感じております。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） 大変力強い言葉だというふうに感じました。一番いいのは、行政はお金を出して口を出さないというのが一番いいパターンだなというふうに思います。そして今、仙台のジャズフェスのお話、市長のほうからありました。それが可能だというふうな認識というか可能性はあるというふうなお話でもありました。これすごく今、注目も浴びていますし、人もすごく行っていますし、飽きらかさないし、ジャズフェスっていってもジャズだけだというわけでもないしという、そういった本当にまちが、音楽というのはこれほど元気にしてくれるのかなというくらいのものであるというふうに思っております。その今、取っかかりで走り始めてるという序の口の段階だと思うんですけども、よされロックフェスのときも鉄マンが

「来年市長2日来へ。」みたいな話もしてました。だから、やる気はものすごくあるわけで、そういう発表の場というそのくくりをもうちょっと何とかつくってあげられないものかなというふうなことで、今検討していくというお話であります。やはり黒石、うちの長男も今23歳で若い者だわけですけれども、よく黒石はなんも行くところないと、なんも楽しみないと、今の若い者なにやっちゅうか親父わかるなというふうな会話があります。自然があるよとか、人情の厚いあずましの里と言われても若い者はなかなか、んだえなという気持ちにはならないという気持ちにはならないという、これはうちの長男だけではなくて、若者全般の中にそういった気持ちはあるんでないかなと思います。そういったところに、ロックフェスっていう1つの若いくくりの中で、今活動が活発になってきているという、ここを黒石としても1つ大きな視点として持って、これからの活動を見守って支えていってあげたいなというふうな気持ちであります。

そこで、私の頭の中でいろいろ考えたときに、次の地域おこし協力隊というこの事業が目につきました。これは1つの事例として、こういうことがあるし、これであれば取り組みが可能なのではないのかなという、そういうことで今回取り上げているわけですけれども、この事業をやるかやらないかというのは今の段階で判断しないと予算編成に載つけられないと特交措置もできないという、流れ的にいけばそういうことになるわけです。国はこの予算化に、この地域おこし協力隊というものを予算計上したそのものに対して特別交付措置をするということがあります。ですから、当市の予算編成に載って、ちゃんと予算化されるか否かでこの事業が特交措置されるかされないかということになっていくわけであります。ですから、見極めて総合的にいろんなことを判断しているということは、今年度の予算には反映されないのかなというふうに、先ほどの答弁を聞いてお伺いしたわけですけれども、その辺いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） この事業はもうスタートしておりますので、個別の事例がもし可能性があるのであればですね、先ほど議員がおっしゃってありましたけれども、都市部のほうから既に来てる方もおるようですけれども、そのほかにも可能性があるような話も伺っておりますので、そういう面ではすぐ調べてみてですね、該当になるようであれば早速進めてまいりたいというのが1つ考え方あります。そして、相対的な今後この事業をどう進めていくかということにつきましてはですね、やはり黒石の中でこれをどう生かしていくのか、その辺を情報もまだほかの事例さまざま上手くやっているところだとかですね、単なるその制度を生かすということだけでなく、それをどういうふう工夫してやっていけばものにしていけるのかと、そういうところもよく吟味していかないとですね、空振りに終わってしまう可能性もありますので、その点は十分情報収集しながら実績が上がっていけるような形に持っていくべきだとい

う、そのまだ準備段階だというふうに思っています。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） はい、ありがとうございます。個別の事例に関しては調査して検討して、できるかできないか判断してみるということだと思います。まず、この定住策に関して1つ今回これを取り上げてみました。事例とか今見てみていろんな分析してみるというお話ですけども、まず今の安倍政権の中でこれを3倍にしていくという大きな核道がついてます。だから乗っかりやすいという、そういったことでもありますけれども、実際にどういう事例があるかと言えば山形の山形ガールズという農場をやっている5名の隊員とか、さまざま事例も調べればすぐネットで出てくることでもあります。3年をめどで、そのあとの定住率はどうかと、そういうことも全部でてます。結構な人が残ってその地域に住んでくれています、若い人が。ということは、20代、30代が住んでくれるということは、そこに30年、40年一緒になって活動してってくれる人が1人でも2人でも国の制度で、特交措置ではありますけれども、市の予算を使わないでふやすことが可能であるということでもあります。ですから、すごく企画によっては左右されるものだというふうに思います。私が音楽という1つとらわれで言ったんですけども、黒石で今こういうものが活発になっていると。そして若い人が今そういうものに飛びつきそうな空気もあるというこの企画で呼べるんでないかなというふうに思ったわけがあります。そういったとこで、音楽にとらわれなくても、いろんな黒石には人を呼びつける可能性のあるものはほかにもいろんな企画の組み方で募集はかけられるのかなというふうにも思いますので、その辺本当にちょっと本腰を入れて検討していただきたいと思っておりますけれども、もう一言何かお願いできればと思います。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 先日もこの件につきまして、議員と少しお話をさせていただきましたけども、若者に、例えば農作業だとかですね、よく一般的にこの制度の活用方法として載っているようなメニューだけではだめだろうというふうに思っています。やはり、議員さんおっしゃるように、若者が燃えるようなそういう情熱を傾けられるようなものがあるのとないのとは、その3年間ですね、制度活用したあとの定着度合いは全然違うと思います。そういう面で制度をどう工夫していくか、そこがこの制度の鍵だろうというふうに思っています。ですので、まだまだそういう面で工夫していくためのですね情報が足りないというふうに私は考えておまして、そこをしっかりと、議員おっしゃるように時間をいつまでもかけてるという具合にもいきませんので、スピード感を持ってですね、取り組んでいきたいというふうに思っています。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） それではこの定住策について本腰を入れて取り組むという理解でよろしいんでしょうか。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 定住対策はこれだけではございません。総合施策でございます。それにはまた財源も伴います。ですので、黒石にとって定住対策、人口減少対策、その中でどれを優先していかなければならないかですね、その辺も十分今情報収集に努めておりますけども、最終的に市長の決断のもとに作業を着実に進めていけるように歩んでまいりたいと、そういう気持ちでおります。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） 時間もないので市長からの答弁は今聞かないでこの次に持っていきたいなと思います。

最後に、ピロリ菌について、ちょっと時間がありませんようですので……

（「あと7分」と呼ぶ者あり）

（「あと14分ある」と呼ぶ者あり）

◎10番（工藤俊広） んですか。そうすればピロリ菌も十分審議したいと思います。

まず、最初の認識のところからいきたいと思いますけれども、確かにピロリ菌ががんになるということではないとは思いますが、ピロリ菌があることによって潰瘍が発症する。さっき逆説的に7割から9割が胃潰瘍・十二指腸潰瘍になったと、十二指腸潰瘍になった人にピロリ菌があったというふうな話の仕方をされてありましたし、また、そうだというふうにも思いますけれども、もっとくくりを大きく国際的に見ると、もうこの胃潰瘍の原因はピロリ菌だというふうなまで言い切っているのが現状だというような私は認識であります。そしてこれが保険適用になったということは、いわゆるピロリ菌を除去することによって国が経費をかけて保険を適用させても意味のあることだと、この胃潰瘍、しいては胃潰瘍からいろんな塩分摂取とか生活習慣とかそういったものが勘案されるとがんになると、要するに胃がんの死亡率を軽減することができるんだというそういったくくりで、今回ピロリ菌の除菌に対して保険適用になったというふうな私は認識ですけどもいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 今、工藤議員おっしゃいましたけども、「WHO」のほうの見解としてはピロリ菌が、がんの原因であるとはっきり断定しております。ただ、日本の厚生労働省の見解として、そういう因果関係はあるだろうと。ただ、はっきりとピロリ菌があるから胃がんになるという認識ではないということですね、まだホームページ上で。それから、先ほど申しましたように、日本消化器学会が、消化器の専門のお医者さんの学会とし

でも、はっきりとピロリ菌ががんの原因であるというふうにはまだ断定してはいないので、行政としては、そこはまだ先んじてピロリ菌があるからそれががんの原因だというふうな断定はまだできないというところではあります、私も工藤議員と同じような認識であります。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） 実はこのピロリ菌の保険適用を推進したのがうちの参議院で、秋野公造参議院議員であります。先日、弘大に来てこのピロリ菌についての講演をいたしました。そこには弘大のずらっと消化器系を含めて教授陣、学長初め参列してこの講演を聴いてありました。そして、この保険適用がいかにか遅いかという、そういったことも厚労省の考え方が鈍いというふうなお話もしておりましたし、医者側も大歓迎だと、今回のピロリ菌の除菌保険適用はと。まだまだ救える命があるくらいのお話もしておりました。そういったところで、このピロリ菌というものに対する認識は、これを除菌することによって相当軽減が図れるというふうな私は認識を持った次第であります。ですのでこれから、広報次入りますけども、広報やってくれるというお話ですけれども、この角度ですね、ピロリ菌の除菌によって胃がんが相当軽減されるということまではうたえるのかな、どんなものでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 客観的な事実として、減少するということはもう出ておりますので、その辺は広報紙で出すにしても、ホームページに出すにしても問題はないと思っております。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） それでは、そういうことでよろしく申し上げます。

私も実は逆流性の食道炎だということで、カメラ飲んだときにですね、ピロリ菌があるというふうにわかりまして除菌しました。いろいろ、そういうこともあってうちの党としても推進しているということもあっていろいろ調べてみたんですけども、そしたら水との関係が非常に深いということが、そろそろ裏付けられてきてるんでないかなというふうに思っております。沖縄では非常にこのピロリ菌というのが少ないそうです。これは、同じ井戸水とか飲んでいても、土壌によってピロリ菌が住む所住まない所があるんだそうであります。残念ながらこの青森県黒石市の井戸水には、私が除菌しなければならなかったようにピロリ菌は存在しているわけであります。そういったことで、特に井戸水を飲んできた私の年代から上の世代だと思っておりますけども、そこに関しての広報で、水との関係のことも注意喚起というか、ピロリ菌がある可能性が高いですよみたいなことも含めていただきたいと思いますけどいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） ピロリ菌の水との因果関係が出ましたけれども、日本国、もちろん世界中ですけれども、認識としてはまず水からの感染が一番多いだろうと。日本でも井戸水の世代、私も井戸水最初小さい頃飲んでましたけれども、水道が発達するまでの世代、40歳以上の方々の大体8割方がピロリ菌に感染しているだろうという結果が出ています。きょうお座りの議員の方の8割方がピロリ菌に感染してるだろうということです。私もたぶん感染してるだろうと、2割ではないんだろうなと思います。その水について、いろいろ広報はしなきゃいけないです。除菌しても、また井戸水飲むとまたピロリ菌かかります、これは。その辺は何回でもやると無駄なので、そういう水についても、できれば本当は水道水飲んでもらえれば一番いいわけですけども、そういう広報ももちろんしていきたいというふうに思っています。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） 最後、じゃあこの検査に関しての公費助成の部分ですけども、弘前でも検診に組み込んでやるというふうに決断するに、実は1年前に一旦やるというふうなところまでいったんですけども、やはり財政の面でなかなか厳しいということで、ことしの10月からこの検査に対して市が助成することになりました。予算は1,600万円だそうであります。できれば黒石でも同じようなシステムで財政措置をしていただいて、これを進めていければ先ほど来ある、この胃がんの因果関係、そして40代8割の人間にピロリがいる。ピロリがいるということは、イコール潰瘍になる率がものすごく上がると、そして胃がんになる確率もあると、そして胃がんになる確率もあると、死亡率が20%くらいあるというところまでわかるデータだけあります。ですので、健康増進の黒石として、ここはゼロではなく何かかしら対応していただくような措置というものを考えていただきたいと思いますけどもいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 制限時間があと5分であります。ひとつよろしく。健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 5分かけて答弁します。

弘前の助成ですけども、弘前は年齢を区切ってます。40歳、45歳、50歳、55歳の年齢になった方を血液検査でピロリ菌の検査をすると。血液検査大体1人1,000円ちょっとくらいかかる予算ですね。あと、人口でやってると思います。黒石市は、大変健康増進には力を入れております。体にいいことは全てやりたい、あるものは全部やりたいんですが、黒石市として今ワクチン、それから予防接種、それらでかなりのものを助成、無料でやっております。公明党さんは保険適応一生懸命頑張ってもらいました。できれば検査の国庫補助の運動もしていただいて、予算の獲得を何とか頑張っていただければ、市のほうでもいろいろできるのかなと思います。現状でいろんな検査やってます、ワクチンとか。その中で、この肺炎球菌もまた補助から交付税措置になって、結局補助でなくて交付税措置になって、交付税減りますからなかなか予算的

なものは大変だろうと思いますが、担当としては本当にいいものは全部やりたいと思っております。何とかその辺後押しをお願いします。

◎議長（村上啓二） 10番。

◎10番（工藤俊広） 簡潔に1分で終わります。

御提言ありがとうございました。今後の取り組みの課題にしていきたいと思っております。本当に予算の部分でありますけれども、先ほど弘前のように40代って年齢に区切りがあると。水との因果関係で考えると、あとの先の寿命のことも考えると結局年齢、助成する幅はそのくらいでいいのかなど。ただ黒石には財布の大きさがありますので、それも含めてぜひとも今回の予算に計上できればありがたいなというふうに思います。財政部長はむりですか。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 全て優先度の判断になってまいります。以上です。

（「以上で終わります」と呼ぶ者あり）

◎議長（村上啓二） 以上で、10番工藤俊広議員の一般質問を終わります。

昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時34分 休 憩

午後 1時03分 開 議

◎議長（村上啓二） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、15番中田博文議員の登壇を求めます。15番。

登 壇

◎15番（中田博文） 平成26年第3回定例会に当たり一般質問をさせていただきます。自民・公明クラブの中田博文でございます。

9月25日天皇・皇后両陛下が48年ぶりに当市を訪問され、りんご観光園並びに県産業技術センターりんご研究所を視察されたのであります。沿道には数多くの市民が集まり日の丸の小旗を振り、感激に浸っていたのであります。私自身も人生の喜びでありました。天皇皇后両陛下には、いついつまでもお元気でありますこととお祈り申し上げるものでございます。

それでは、通告に従い一般質問を始めたいと存じます。

大きな1番目はふるさと納税についてであります。

昨年の第2回定例会に北山一衛副議長がこの件を取り上げております。結果的には進展がないままでしたが、最近、市民の方や職員の方から当市はどうしてふるさと納税の特典がないかと聞かれていることを報告いたします。今まで、新しいものは提案してすぐ取り組んでくれないのが行政であります。2008年から始まったこの制度、初年度はわずか3万人でしたが、20

11年度は74万人にふえたとのことであります。ふるさと納税をすると全額控除され、お金が戻ってきても2,000円は戻ってきません。そこで、自治体からの特産品が注目されているのであります。長野県の阿南町は1万円の寄附に対して1万円相当のお米10キログラムがもらえるのであります。1万円寄附すると、2,000円自己負担ですが1万円のお金が届いて、税金も8,000円安くなるというお得な話なのであります。また、他を検索すると、サーロインステーキ、いちじくワインとジャムのセットなど、それぞれ自治体で工夫をこらし、いろんな品物があるのであります。ということを念頭に置きながら、当市の考えと現状を問うものであります。

1つ目は、平成24年25年のふるさと納税の件数と金額であります。

2つ目は、黒石市民が当市に対する寄附件数と金額、さらには市外・県外に対しての寄附件数と金額をお知らせください。

3つ目は、昨年、特典を考えない旨の答弁をしております。せっかくのチャンスを逃すということは、市民に対して申し訳ないと思わないかであります。特典は実施することがごく当たり前のことと思います。

福島県湯川村では、昨年4件で46万円、ことしは現在1,333件で総額4,020万円、件数330倍になったことであります。その要因は、寄付額に関わらず米5キログラムから1俵に変えたことが全国の関心を生んだようであります。当市もおいしいリンゴやお米があります。また、1円でも10円でも税収を上げ、市民のためになることを実施することが必要と思いますが、所見を賜りたいと存じます。

2番目の質問は、公用車の運用についてであります。

私は過去に公用車をオートバイや自転車に変え、車両代、車検代、ガソリン代を浮かせ節約をすることが行革推進につながると進言しましたが、実行は無理だったようであります。無駄を省く考えから、保有車両は最小限にする努力と稼働状況はどのようになっているのか、まずはお知らせいただきたい。

2つ目は、市民の要望する市民バスについてであります。福祉バスは2台でフル回転をし、空きがないくらい稼働しているとのこと。しかし、市民は福祉バス以外の市民バスの必要を訴えているのであります。PTA、子供会、文化サークル、スポーツ関係者、学校など幅広く数多くの市民が要望しているのであります。もし、バスの購入と、1年間の経費ということになると、どれくらいの費用が必要になるのかと、また、市としてこの要望にどのように考えているのか、所見を賜りたいと存じます。

3番目として、補助金のあり方についてであります。

1つ目は、市老人クラブ連合会についてであります。市老連の総会資料を見開くと、1年をとおして長寿福祉大会、スポーツ大会、グラウンドゴルフ大会、生きがい事業など、あわせて

いろんな事業・活動を実施しております。しかし、ことしに入り山形地区が離脱したとのことです。市老連の先行きが心配でなりません。市内38単位、老人クラブよりなく、会員総数1,454人であり、年々会員が減少の傾向にあると承っております。市老連には、年間約60万円の補助金であり、単位老人クラブには約164万円です。今まで財政再建という目的のために補助金は減額されてきたのであります。お金が全てではありませんが、市老連の拡充と後方支援を行政担当課にお願いするものであります。見解をお尋ねいたします。

次に、市連合婦人会についてであります。婦人会についても先の市老連と同じく、会員の減少と活動費に問題があるのではと危惧するものであります。予算書の中身を見ると、地区育成費が1地区3,000円であり、年会費700円。値上げの話題になると辞めていくような空気になるそうであります。市からの補助金は通年では9万円であり、もっと支援をしてやるべきと思いますがいかがでしょうか。

婦人会といえば、街頭で赤い羽根募金運動や市のイベントの協力、特に黒子に徹してくれている団体であります。防災という観点からも市婦連は全地区に組織化を図り、昔みたいな市婦連になっていただきたいと強く望むものであります。そのためには、準備資金や活動費が必要ではないかと思うものであります。組織が小さくなることは、市にとってマイナスはあってもプラスはないのであります。担当課並びに市長の力もお願いするとともに見解を問うものであります。

4番目は、少子化対策についてであります。日本の国はこのまま手をこまねいていけば、100年後には人口が1億2,000万人から6,000万人に半減してしまうという予測する学者もおるのであります。当市も5年間で1,500人から1,800人ずつ人口は減少すると推測され、平成40年には3万人そこそこで、40年後には2万人に減少するという見方をする方もいるのであります。当市も少子化が進み、減少が続く今日、当市の少子化対策はどのような施策があるのかお尋ねいたします。

若者に仕事の間を、若者に定住してもらおう努力をしなければならないのであります。対策を講じない自治体は、2040年には消滅状態になるということでもあります。今のままの黒石市も例外ではありません。真剣に取り組みをしなければならないのであります。専門の担当を新設する考えはないか、所見を賜りたいと存じます。

5番目は、市民文化会館の一部再開についてであります。この問題は前回の定例会においても取り上げており、答弁中今までなかったような内容のものがありましたので、継続でまた取り上げた次第であります。その内容は、厳しい財政状況の中ではあるが改修工事の見直しを図り、必要最小限の費用でオープンが可能か検討中であると答えておりますので、可能か検討中の内容を承りたいと存じます。

最後の質問は、指定管理者制度についてであります。

まずお尋ねすることは、委託料の件数と総額はであります。スポカルイン黒石、伝承工芸館の委託料は1億円を超える額になるのであります。予算規模が小さく、脆弱な体質の黒石市にとってはあまりにも大きな金額であります。市民はこの2つの施設を必要と思っているのでしょうか。なぜなら、スポカルイン黒石総額40億円、伝承工芸館33億円の建設費によって黒石市は財政面で奈落の底に落ち、市民文化会館の休館へと進んだのでありますので、この2つの委託については検証を常に厳しく考えなくていかななくてはならないと思っております。見解を聞きたいと存じます。

以上で、壇上からの一般質問を終わります。御清聴まことにありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 中田議員にお答え申し上げます。私からは、少子化対策について、そのうちの少子化対策について現在どのような施策を行っているのかについてお答えいたします。

少子化は、人口減少問題の大きな要因の1つでもあり、その対策につきましては、相対的に関連するものと認識いたしております。一口に少子化対策と言いましても、それぞれのライフステージに応じた対策が必要であり、例えば、結婚に向けた環境整備として、未婚化・晩婚化対策や、結婚する若者、子育て世帯向けの住宅供給などが考えられますが、当市といたしましては、ちとせ住宅団地住宅建設融資利子助成を実施いたしております。

また、妊娠・出産対策といたしましては、妊婦健康診査料の無料化など。子育て対策といたしましては、保育料の軽減や乳幼児医療費の無料化。仕事と育児の両立対策といたしましては、延長保育や一時預かり、休日保育などを実施いたしており、子どもを産み育てやすい環境の整備に努め、総合的に少子化対策に取り組んでおります。私からは以上であります。

降壇

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは、ふるさと納税についてお答えいたします。

まず、平成24年度及び25年度における全国のふるさと納税寄附件数ですが、総務省の調べによれば、平成24年度74万1,677人で649億円、平成25年度が10万6,446人で130億円余りとなっております。

次に、ふるさと納税の対象となる本市への寄附件数と金額についてでございますが、平成24年度が17件86万円、平成25年度が13件85万円でございます。また、黒石市民による、ふるさと納税の対象となる市外や県外への寄附件数及び金額につきましては、平成24年度が4件19万

円、平成25年度が6件18万2,500円となっております。

特典を考えてはどうかとの御質問でございますが、善意である寄附行為に対して、その金額の多寡によって差をつけるということが果たして妥当なのかどうか。また、心からの御厚志により、長年にわたり当市への寄附を継続していらっしゃる方への対応、さらには、費用対効果などの面から考慮すべき事項があることから、特典の付与の実施については、今後、慎重に検討してまいりたいと考えております。

続きまして、公用車の運用についてお答えいたします。現在は、公用車の一括管理による公用車の導入や、職員が個人所有している車の公務使用の許可などにより、公用車の台数の増加は抑えられております。しかし、年々、税の徴収事務や福祉業務の家庭訪問の増加により、個人所有車の使用がふえ、公用車が不足している状態で、公用車の削減は難しいと考えております。

次に、市民の要望する市民バスについてでございますが、市が貸出用のバスを所有することについては、更新しようとしているバスを貸し出すことがいいのか、また、費用対効果、運用方法も含めて多方面から検討しております。

続きまして、少子化対策の担当窓口の新設についてお答えいたします。少子化問題については、子育て支援体制の整備のみならず、雇用・教育・生活・職場環境の整備や、経済的問題、価値観の多様化など、社会全体の様々な要因が複雑に絡み合っている現象であることから、その対策についても、1部署で解決できるものではなく、複数の分野にまたがってくるものと考えております。少子化問題に限らず、現在は複数の分野にまたがる行政課題が増加してきていることから、今後は、各分野を横断して総合的に政策・施策を推進していくための新たな部署の設置について検討しています。

続きまして、指定管理者制度について、委託料の検証についてでございます。現在、当市において指定管理者制度による管理運営を委託している施設は45件ございます。うち指定管理料を支出している施設は31件、地元負担等による施設は14件であります。指定管理料の総額は平成26年度当初予算ベースで3億7,309万5,000円、主な施設としてスポカルイン黒石5,889万4,000円、津軽伝承工芸館5,220万円、六宝館を含む地区公民館・地区センター7,157万5,000円などです。委託料の検証という点では、指定管理料については指定管理の管理運営に関する基本協定のほかに年度協定を定め、業務範囲または業務実施条件の変更に伴う変更などが生じた場合は、随時で指定管理者と協議の上、決定しております。また、スポカルイン黒石と津軽伝承工芸館の将来はいかにあるべきかということでございますが、スポカルイン黒石は当市のスポーツ・文化・産業の振興、津軽伝承工芸館にあつては当市の観光振興を図る上で、それぞれの拠点として重要な役割を担っている施設でありますし、運営方法につきましては、施設を

効果的かつ効率的に管理運営するに当たり、現在導入しております指定管理者制度が最も適していることから、今後も同制度による運営を継続してまいります。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは、補助金のあり方の老人クラブ連合会についてお答えをいたします。

まず、会員の減少ということについてですが、市老人クラブ連合会へは、8地区から38の単位老人クラブが参加して、会員数は約1,450人です。その会員数は、年々減少している状況は議員御指摘のとおりでございます。会員数が減少していく要因として考えられているのは、会員の高齢化による退会、並びに新しく6歳になった老人クラブに加入要件を満たした方々の生活様式の変化、かくゆう私も60歳なんですけども、老人クラブに入るかと言われると入りません。やるのが違います、やっぱり。そういうことが老人クラブ離れ、やってる中身と新しいニーズが合わないところがあるんじゃないかというところが一番考えられます。ただ、老人クラブ活動そのものは、大変必要な社会活動というふうに認識をしております。市としては、市老人クラブ連合会の事務局を担当しております社会福祉協議会とともに、支援をしていきたいというふうに考えております。

次に、補助金の増額はできないかということですが、今、市老人クラブ連合会へは、年間で60万9,000円の補助金を支出しております。それから、それぞれ単位の老人クラブへは、1クラブ当たり4万3,200円の補助金を支出しております。内訳は、県からの補助が3分の2、市の持ち出しが3分の1という割合となっております。老人クラブの事業の実施状況に応じて補助金は出すことになってますけども、ほとんどこの4万3,200円、各単位のやつは満額、各老人クラブのほうには支出しております。いろんな事業をやっております。皆さん頑張っておりますのであれですけれども、これからの市の人口減、それから高齢者の人口減等考えて、補助金についても各地域、老人クラブとか婦人会とかでなくて、各地区地区ごとでそれぞれ包括的な補助金ということを考えていくことも必要かなというふうには、私的には考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは、まず市連合婦人会についてお答えします。

本市においては近年、婦人会に限らず各種団体の会員の減少傾向が見られていることは事実であり、この現状を重く受け止めております。教育委員会では、支援の1つとして、これまで地区単位での加入から、単位または個人でも加入できるように会則の見直しを検討するため、市連合婦人会と話し合いを持ち、会員の増強が図れるよう協議しております。また、市連合婦

人会に加入していない地区婦人会に対し、地区協議会や公民館にも加盟を促すよう引き続き働きかけてまいります。

次に、補助金の増額についてですが、今年度は、市制60周年記念事業として、来年の1月に行われる婦人大会で宮古市との交流事業を計画しており、前年度より市連合婦人会活動補助金を6万円増額し、15万円としております。現状において、市連合婦人会の活動に対して、補助金の増額は考えておりませんが、特別な事情等での要望があった場合には検討してまいりたいと考えております。

次に、市民文化会館の一部再開についてですが、前定例会での答弁を踏まえて、これまでに庁内関係部局と連携を図りながら、一部再開に向けての検討会議を2回実施しております。当初の改修工事見積額を精査したところ、削減可能な項目はありましたが、一部再開については開館時の運営面など総合的な問題も関係してくることから、引き続きさまざまな角度から課題を探り、検討を進めることとしております。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。15番。

◎15番（中田博文） ふるさと納税についてであります。答弁、否定するわけではありませんけれども、この金額を聞く限りだと全国的な件数、金額はすごいふえてると。黒石はさほどふえていないと。やはりここには注目するという何か黒石独自のカラー的なものを出していかなければいけないという気持ちで、今回このものを通告したということであります。特典の導入というものをやらなかった理由は今述べられておりますけれども、そのものを決めたという段階では、どこの課がどれくらいの人数でそのものを話し合っ、当時の市長に協議的なものを持っていったかということ、まずわかる範囲で結構ですのでお願いいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） すいません、ちょっと聞き漏らしました。もう一度お願いします、すいません。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） ものを決める段階にあつては、最終的には市長が決めるわけですね。そうすると、担当がもしも、ふるさと納税の担当は総務課なら総務課と。総務課の中のどこどこ係とかという形でものを話し合いして、特典の導入をするかしないかというものを話し合いして市長のほうに進言・注進という形でものを持って行って、じゃあ実施しないというふうな結果が出てるんだらうと思うんですけども、その経緯的なものを過去にどういう流れであったかということをお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） これまでは、寄附なされた人の意志によって、どういうものに使いますかということをお聞きして、それでそれを市長のほうへ進言してこういうふうにして、何でもいいですよというときに、これこれこういうふうにして使いたいと、そのようにこれまではきました。現在は、人材育成のために、それから今後姉妹都市の交流基金でありますとか、そういうものに用途をしっかりと決めてやっていきたいと、そのように思っています。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 総務部長のその答弁、決して否定はしませんけれども、私が述べているのはですね、一般質問でも述べたとおり拡大、1円でも10円でも多く寄附行為をしていただきたいということを考えていかなければいけないんでないですかということ、前に決めたときは寄附者に対して善意がどうのこうのということはまた別にして、最終的には市長が決めるんですけども、その物事を決めた係なり課で、これこれこうですからってものを持っていくと、たぶん当時の市長でもそうかということ、それで行けばいいんでないかと。こういうものやればいいんでないですかって担当職員がしゃべれば、逆に市長はそういうものじゃあ模索研究して実施できるかやってみようということになると思うんですけども、今の答弁だとちょっと納得いかないような答弁ですので、再度またお願いします。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） このふるさと納税につきましては、私が就任時に担当課から説明を受けました。その際にですね、私もホームページ見ますと、当初の段階でいきますと、ふるさと納税につきましてはこみせの復元等、黒石のまちづくりに使用していただくようなニュアンスの表現でありましたけども、やはり納税する方々が何にやるのかということとは明確に打ち出したほうがいいんでないかということで、今回それにプラスさせていただいて人材育成に特化したいという旨を私が指示し、今回ホームページにはふるさと納税に対しては人材育成に活用させていただきますと。また希望のないそういう人に対する指摘がない場合におきましては、こみせの復元等、まちの活性化等に使用していただくような表現になったわけでありまして。その過程で私自身も地元の品物をという議論もいろんな場面であるのは承知してはいますが、私個人といたしましては、これがですね結果的に競争の原理に入ってしまうと、切りがなくなってしまふ。ですので私はあくまでもその用途をふるさと納税する方に黒石の意向を伝える努力をして、そのもので気持ちを込めてですね、ふるさと納税をしていただきたいというほうがいいんでないかということで、今回このような形になったわけでありまして。また、先般、大館で東北市長会が行われまして、国の方々のいろんなふるさと納税に対するお話もお聞きさせていただきましたけども、やはり国自体もですね、あまりにも今の現状を見ればちょっと過剰だという

ような受け止め方をしているようであります。ですので、当市といたしましてはあくまでも人材育成、子供たちの教育環境等々、そういうものにある面で特化した部分をアピールして、1円でも多く納税していただくようにこれからも努めていきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 高樋市長さんのその思い、理解できますけれども、せっかくチャンスというものが目の前にあるわけでございますので、それとこの後また控除額が2倍になるという国のほうでは研究していきたいということでもありますので、決してその特典のものの品物が競争的なものでなくても結構だと思うんです。黒石市は財政が厳しいということを訴えながら、リンゴ1個であろうが、PR、黒石市のPRと地元生産品のPRを含めてですね、私自身はこの特典というものを黒石のカラーということを出しながらやっていって欲しいと思っておりますので、再度また答弁をお願いいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 慎重に検討させていただきます。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 前の北山一衛副議長のふるさと納税のですね、特典の議事録見てもですね、検討、検討、検討ということで、じゃあその検討がいつ回答がでるのかということで、最近本当に疑問を抱くようになっておりますので、検討は次期、12月議会で新たなる形でまた質問通告いたしますので、それまで何とか回答をお願いしたいということでもあります。それとですね、若干の疑問を持つのは、こういうもののものを決めるとき担当課だけでなくですね、関係する職員も一緒になって納税ということでもありますので、会計課、税務課、収納課というような形でその方々の意見も聞きながら一緒になって、このものを決めるということもまた必要ではないかなという気持ちで私今いるんですけれども、12月議会でそういう意見集約しながらお答えできるでしょうか、お願いいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） それらも含めて検討させていただきます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 次はですね、少子化問題でありますけれども、実際黒石市はなにもやっていないわけではなくて、先ほど説明、答弁あったとおりのいろんな分野でいろんなことを一生懸命やっているのは確かであります。しかしですね、ものを集約しながら本当の窓口がなければ物事って進んでいかないというふうに私は理解しておりますけれども、もう少し所見を賜りたいと存じます。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 先ほど御答弁申し上げましたとおり、新たな施策、それらを具現化していくために新たな部署を設置しようと、そのように考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） じゃあその答弁に期待してよろしいのでしょうか。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） ぜひ期待しててください。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） ありがとうございます。

補助金のあり方ということでありまして、本当に今まで、鳴海前市長が悪いわけではありません。財政再建のために、その年は一律5%、その年は一律10%というのがずっと延々と何年も実行されてきたということが、本当に今考えると1つのもの二律背反的なものであって、物事は進んでるんだけど、逆に物事が衰退していったということが今現実にあらわれてきているのかなということでありまして、この補助金も吟味しながらこれもまた検証しながらですね、強引に出してやって活性化、活発になるものには大いに検討していただきたいと思っておりますけれども、もう一度お願いいたします。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 確かに多いにこしたことはないと思いますが、活動に応じて県等からの補助金をいただきながら交付していると。直接補助金を交付するだけでなく、例えばうちほうは老人クラブですけれども、福祉バスを無料で老人クラブの方々に利用していただいております。大体、年間、老人クラブで140回ぐらい利用してます、福祉バス。大体バス1台、1日借りると5万円くらいかかりますから、それだけでも500万円、600万円くらいの補助にはなっているわけです。実際の直接の補助金というのは今の額ですけれどもその他いろいろな側面から、婦人会も同じですけどね、婦人会は使わないのかな福祉バスについては、そういうふうな側面からの助成もしておりますので、何とぞ御理解をいただきたいと思っております。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） わかりました、ありがとうございます。

公用車やっちゃったから、公用車のことなんですけども、市民の要望する市民バス、答弁が金額とかそのもの何もなかったんですけども、わかる範囲でお答えいただきたいと思っております。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 金額的なことですね、バスの購入費は2,500万円でございます。大型です。稼働回数による違いはございますけれども、年間の維持管理経費は180万円、人件費が180

万円、最低年額360万円必要になります。また、仮にですね、車庫等の確保ということになればさらに負担はふえると、そのように思っております。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） たぶんこの議場にずっと入っている方々ですと、たぶんいろんな議員から仮称ですけども市民バスというものの導入をお願いしたいという意見・要望という形で出てきていると思うのですけれども、長い目でですね、分割というものを含めながら公用車としてこの1台をふやしていただきたいという考えを新年度でもできなければ、2年後でもということを考えていただきたいのですけれどもいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） それらもレンタルとかそういうのも含めて検討しております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 検討しているということは、12月議会あたりにある程度の目星は出てくるということになりましょうか。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） それが早いか遅いかはこれからだと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 市民文化会館についてでありますけれども、ことしで7年目の休館ということになります。先ほど一般質問でも述べておりますけれども、高樋市長これからまず1期目は4年ということになります。そうすると、1期4年間の間に可能性ということ考えた場合、非常に私は兆しも何も下地も準備も何もできないまま進ということですので、もし1期4年間の間に市民文化会館一部再開のめど、目安ができないということになると、11年目ということになるわけですので、10年というのがそういう休館的なものは1つのめどになるのかなという気持ちありますけれども、私の述べているその考え方にコメントできるものがあればお願いいたします。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 市民文化会館の一部再開についてですけども、これは前市長も強い気持ちで1日も早く再開したいという思いでありました。高樋市長にいたしましても、やはり同じように1日でも早く再開できないかということで指導を受けております。それに対して我々は内部で懸命に検討しているところでございますので、そういう意味では同じく、1年でも早く再開したいという思いで対応しております。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） その思いはわかるんですけども、政治や行政というものは結果が出なければ有権者市民は納得しないわけでありまして。ある程度のだんで、今までも述べておりますけれども、めど的なもの、昔であると平成27年度全会計赤字解消というその時期がくると、ある程度のものは考えていけるということでありましてけれども、一般会計自体もやりくりが大変だというのがもう目に見えてるわけです。ということになると、3億、4億というものの財源というものが捻出できないというのが、もう今の段階で明らかな感じになってきているわけでありまして、私は逆にですね、平等的な考えになるとスポカルイン黒石・伝承工芸館を逆に5年間休館して、逆にそういう資金を市民文化会館のほうに回すという、これが平等・公平ということになるのかなという逆な意味での発想を感じている、思ってるんですけどもいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 思いは先ほど述べたとおりですけれども、文化会館の開館に関しては、まず改修費用のほかに開館してからの維持管理費というのも当然かかってきます。そうした財政面のことを総合的に考えなければいけないものですから、これはいつというふうにはいきませんが、財政と協議しながら進めているところでございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 維持管理が捻出できない、大変だということになるとですね、今のここにいる職員の方々にももの申してもしょうがないわけでありましてけれども、黒石市の人口なり財政状況の中であって、あの市民文化会館をつくったことからもう間違いが始まったという私はそういう考えに達するわけですけれども、そのものに対して答えることができるかどうかお願いいたします。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 当時、オープンしたときはですね、今と全く経済状況が違いまして、ある意味次は何だという、ほかの市町村との状況もありますけれども、当時の市民文化会館はそれこそ1,170の席がありまして、黒石は文化のまちだということからいろんなあそこで文化や芸術が行われていた。そして市民、子供たちも鑑賞劇ですとか、そういう意味では非常に大変いい施設であったと思います。ただ、それがこういう経済状況もあわせて今なかなか維持することが困難な状況にあるということですので、当時の状況と今との比較とは単純にはいかない問題だと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 政治・行政というものはですね、一生懸命努力しても叶わないものも出て

くるのもわかります。しかし、身の丈に合ったものということをやっぱり担当の職員の方々がしっかりと練ってですね、当時のその首長のほうに物事を出していくという考えに立たなければ、こういうような結果になるわけですね、市民文化会館しかり。私はその公共施設に関してはあんまりにも金がかかりすぎるといことで、こういうものというのは半減させるか、ある意味では休止・休館ということもやっていかなければ一般会計のほうに厳しいわけですので、今後のことを考えた場合、市民の将来のために考えた場合ですね、思い切った政策を考えを持っていかなければいけない。例を挙げるならば、活菜館でもしかり。使命終わったから閉めると、これはこれであの場所でそれなりの活性化のために頑張った施設であるだろうしということ考えた場合、逆に人によっては市民文化会館ですね、もう使命終わったという感じの考え方の人もいるのは確かです。ということも含めながら、ある時期にですね、決断をすることも必要だと、どっちにしても決断することは大事だと思います。ずるずるべったりでいくことが市民に希望を与えながらがっかりさせる結果になるわけですので、ある時期に決断をするような考えを持っていただきたいと思います。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、15番中田博文議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、2番工藤和行議員の登壇を求めます。2番。

登壇

◎2番（工藤和行） こんにちは。私は、自民・公明クラブ工藤和行であります。

まずは、先月25日、天皇皇后両陛下におかれましては、私的旅行としての青森県への行幸啓にて、当市にもお立ち寄りいただきましたことは望外の喜びであり、市民、国民の1人として感謝申し上げるものであります。日本国の象徴であり日本国民統合の象徴である天皇陛下、並びに皇后陛下におかれましては、ますます御健勝であられることを御祈念申し上げるとともに、未永く国民をお見守りいただきたいと存じます。

さて、質問の1点目は、当市の財政について。

アとして、平成25年度決算を踏まえてであります。

平成25年度の一般会計決算は、6億5,000万円の黒字ということではありますが、説明を受けたところによりますと、交付税の減額や返還金、財政調整基金の取り崩しなどがあり、決して楽観はできないとのこととあります。しかし、平成20年度から黒字を維持し続けているという事実からも、少しは財政が好転しつつあるのではないかと感じているところであります。この際、御労苦に対し敬意を表するものであります。

さて、質問としては、平成25年度決算を踏まえ、市長の行財政に対するお考えをお聞きしたいと思います。鳴海前市長は、財政が好転するまで我慢するという姿勢でありましたが、高樋

市長としてはどういう考えをお持ちなのか、どのような姿勢で臨むのか、まずお聞きします。

次に2点目、教育行政についてであります。

アの小・中学校の適正配置と給食について。

前回の一般質問でもお聞きしたところではありますが、その後、小学校の統合に関して方針が一部見直され、議員全員協議会で説明を受け、市報にも掲載されました。主として統合時期の先送りということであったと思います。統合予定3校のうち2校を平成32年度開校を目指すということでもあります。枠組みについては従来どおりでありました。今後、地域からの要望があれば、この枠組みを変更するということがあり得るのか、まず1点お聞きします。

さらに、統合が先延ばしとなり、給食の実施についても先延ばし、市報での表現によると「30年度実施を32年度以降実施に変更」と、全く不透明になってしまったわけであります。が、給食実施実現の可能性について、いかがお考えかお聞きします。

次にイとして、地域住民等への説明についてであります。

まずは、学校適正配置の一部見直し案について、今後説明なり意見聴取なりされるのか、今後の予定についてお聞きします。

続いて、黒石幼稚園の閉園についてであります。

反対意見が出ているようではありますが、閉園の是非について聞くのではありません。説明の時期についてであります。今年度入園児保護者には、入園後に28年度での閉園の説明があったと。これは4歳児5歳児についても同様ですが、特に3歳児については現状のまま推移すると卒園時には3人だけ通園するということになります。入園前に情報提供、説明があればまた違ったのかわかりません。教育委員会としては、適切な説明の時期はいつだと考えるかお聞きします。

以上、壇上からお聞きし、私の一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤和行議員にお答えいたします。

私からは、当市の財政についてお答えいたします。

鳴海前市長の在任期間中は、地方の景気低迷が続く中、財政が非常に厳しい環境にあり、負の遺産を後世に残さないために、財政再建を最優先課題として市政運営に取り組みられました。その結果、一般会計では平成20年度から黒字決算を継続し、企業会計の資金不足額も目に見えて減少しており、財政健全化に対する鳴海前市長の一貫した姿勢には敬意を表したいと思っております。また、財政健全化は引き続き大きな課題でありますので、継続した取り組みが必要

だというふうに考えております。しかしながら、現在全国的な課題となっております人口減少・超高齢化という危機的な社会問題に対応するためには、中長期的な視点での施策が講じなければならない、新年度予算の予算編成におきましては、継続事業は実績を十分に分析することに加え、新しい感覚・新たな発想による施策を検討するように指示したところであります。私からは以上であります。

降 壇

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは、まず小・中学校の適正配置と給食についてお答えいたします。

適正配置の方針一部見直しについてであります。議員全員協議会でも御説明申し上げましたように、小・中一貫、小・中連携教育の推進や学校統廃合指針の見直しなど、国の動向を総合的に鑑み、今回の一部見直しに着手するに至ったわけですが、今後、各地区へ出向いて説明会を行うに当たり、当然多くの意見が寄せられると考えております。しかしながら、教育委員会といたしましては、適正配置の意義・目的という総論の部分については理解していただいているものと思っており、現在お示ししている枠組みでの統合を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き周知を図ってまいります。

給食の実施についてであります。完全給食の実現を望む保護者の声が非常に多いことは十分承知しております。教育委員会といたしましても、子供たちにとってよりよい教育環境の充実を図るために必要なものと認識しておりますので、平成32年度以降に実現できるよう取り組んでまいります。

次に、地域住民等への説明についてお答えいたします。

学校適正配置の説明につきましては、今回の方針一部見直しに伴い、9月12日に市議会全員協議会で議員の皆様へ御説明した後、市立小・中学校の校長で構成する黒石市校長会や、地区協議会長と公民館長が出席する連絡協議会での席上で、これまでの経緯と今後の方向性を説明してまいりました。今後は、地域住民を対象に、11月から改めて市内10地区での説明会を開催してまいります。

また、平成29年度に予定している中学校の適正配置では、来年4月に入学する生徒から統合に関わってくることから、各学校で開催される入学説明会などでも、保護者や生徒に対して積極的に情報提供し、理解を求めていきたいと考えております。

次に、黒石幼稚園につきましては、8月に開催した保護者説明会の際に、保護者の皆様から「4月の入園時に説明をすべきではなかったか」との声を聞き、結果として、不信を抱かせてしまったことを大変申し訳なく思っております。これまでの黒石幼稚園の経緯といたしまして、

平成17年度に廃園や民間移譲の話が持ち上がった背景や、平成21年度に、5年後をめどに再度協議するといった経緯、さらには、この5年間、教育委員会での協議過程について、保護者の皆様との情報の共有がうまくなされていなかったことについて、1つの反省点と捉えております。今後は、保護者の皆様への不安解消と理解を図っていくために、なお一層の説明に努めてまいります。教育委員会といたしましては、現在の3歳児が3人にまで減ってしまった現状を受け入れつつも、この子供たち3人が卒園するまでは、何とか黒石幼稚園としての教育環境を維持したいものとの思いでおります。平成27年度は4歳児及び5歳児、平成28年度は5歳児の入園募集を継続しながら集団教育の維持に努め、3年後の平成29年3月での閉園方針を公表したところでございますので、何とぞ御理解いただきたいと思っております。なお、今回の事例を受けて、行政側の適切な説明時期についての質問がございましたが、今後のさまざまな事案につきましては、それぞれの実情に応じて多方面から検討し、適宜適切な時期に対応してまいります。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。2番。

◎2番（工藤和行） 答弁ありがとうございました。

まず、当市の財政についてでありますけども、ただ今市長の答弁にあったとおり、厳しい財政環境の中で、これからも新しい施策を考えていくというその姿勢は大いにわかりました。継続することも大事でありますけども、やはりそれにとらわれることなく新たなものが出てくるような期待がしております。また、しかしながら、新しいことをやろうとすればまた新たな費用が生じるということでもありますので、その財源についてはどのようにお考えかお答え願います。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 今の財源の件ですが、例えば従来の考え方にとらわれずにですね、使命の終えた事業、社会情勢に、もう時代もどんどん変化していってますので、時代にマッチしにくくなってる事業とか、そういったものをですね、思い切って取りやめるとかスクラップ・アンド・ビルドということになりますけども、その手法の検討。それから国で今地方創世など新たな動き、次々動こうとしているわけでもありますけども、その中で今後地方の支援策として新しい財源がどういうものが出されてくるか、それはですね、十分アンテナを広げて使えるものはどんどん生かしていくという姿勢で臨んでいく必要があるというふうに思っております。それから、もう1つ大事なことでありますけども、少ない財源でより質の高い行政サービスを進めていく上です、全ての職員がもっと知恵・工夫、そういうものを出すことが大事

であるというふうに思っております。そういう外へのアンテナの広げ方、それから内なる職員の意識改革ですね、そういうもので黒石のために有効な財源を新たに発見していく努力も積み重ねていくということを進めてまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） これから高樋市政のカラーがいろいろ出てくるのかなという感じはしておりますけれども、気になるところをあと1つだけちょっとお聞きしておきたいんですけども、平成27年度で一応全会計黒字化ということで、これは大分めどがついてきたのかなという感じではありますけれども、それ以降に関して、28年度以降、企業会計などへの繰り出し、現在健全化対策で上乘せしている分が、これが減ってくると思うんですが、どの程度減ってくるのかをお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 先の話として、健全化対策の繰り出しが減ることは想定してございますけれども、ただですね、企業会計の場合、収益の変動ということも考慮しなければなりません。そういうことから、現時点で具体的な金額を示すということではできませんが、経営改善のためにですね、今後も繰り出しは継続する必要があるというふうに考えてございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） それでは、教育行政について、まず小・中学校の適正配置と給食についての部分ですが、先ほどいろいろこれまでの経緯など説明していただいたところでありますけれども、まずは給食についてですが、現在、弘前市と圏域の協定で項目に載っているということでもありますけれども、これが24年度から28年度が第1回というかローリングだと思っておりますけれども、今の計画でいくと32年度以降ということになると、第2次のローリングというのかな、そっちのほうになってくると思うんですけど、そちらのほうでの協議というののはどのようにしていくのかひとつ聞きたいと思います。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 現在、学校給食の提供については定住自立圏で弘前市と黒石市との協定を結んでございます。これが24年度から28年度までが、先ほどおっしゃられました第1次。そして29年度からさらにまた5年間が第2次の計画になるかと思われまます。今後の給食の提供については、この第2次の計画で継続して弘前市と協議するというところで話しているところでございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） その辺はわかりました。現在、方針の一部見直しの部分でまたちょっと聞

きたいんですけども、統合の実施時期が延びたということで、私としてはその理由に財政的な理由が大きくあるだろうと思うんですけども、まず平成32年度新設予定、新築の予定の統合校、また、スクールバスなど環境整備、あと、聞いております給食の実施を含めた全体的な財政計画としてはどのようになっているのか、これ財政のほうにお聞きします。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 適正配置方針につきましては、統合校は平成32年度をめどに開校と、そして給食のほうはそれ以降の実施と変更になったわけですが、いずれも事業費が非常に大きいわけであります。そしてもう1つは、非常に重要な課題でもございます。実施内容の今後につきましては実施内容の具体化を進めながらですね、市全体の事業の中でどう組み込んでいくか、財政状況をどう好転させていくか、そういうことをあわせて検討、そして計画づくりが必要でございます。財政状況は厳しい状況が続くと判断しておりますけども、学校建築、それからその先にございます給食につきましてもですね、実現のために先ほども申し上げましたが知恵を絞りながら財政環境を整え、早期に実現・着手できるよう、財政としても最大限努力してまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） なかなか財政厳しい中、しかももう少し先のことであるので、なかなか今スパッと言うのも難しいのかなという感じではあります。あとこれ以上聞いてもこの部分で終わりだと思いますので、次のほうに聞きたいと思います。

残りは地域住民等への説明についての部分でありますけども、学校適正配置についてはこれからまた今の見直し案を持って回るということでありましようけども、今回、ちょっと言いたかったのは黒石幼稚園のほうの関係、時期ということなんです。確かにいろいろ、閉園の時期をいつ言うかというのも大変難しい問題だと思うんですね。ただ市民からすると早めに情報が欲しい、判断のための材料が欲しいということもありますので、今後、先ほど言ったようにきめ細かな情報提供、またこれは教育部門だけではありません。全体的に言えることでもありますので、その辺だけを申し上げて、何かありましたらおっしゃってくださって結構ですが、終わります。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 先ほども申し上げましたけども、保護者の皆様の視線に立ってですね、きめ細かな対応をしていきたいと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、2番工藤和行議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、14番北山一衛議員の登壇を求めます。14番。

◎14番（北山一衛） 本日最後の一般質問を行います、自民・公明クラブの北山一衛であります。高樋市政になりまして初めての一般質問であります。

高樋市長が就任されてから3カ月がたち、公約実現に向け、新年度予算編成に取りかかろうとしているこの時期、本市の財政状況の厳しさ、学校の適正配置、人口減少問題、経済・産業の停滞、市街地の活性化、市民所得の低下、雇用問題などなど、課題が山積しているさなかの船出であり、一朝一夕には解決できないことばかりであります。高樋カラーを存分に発揮し、一歩でも前進していただくことを期待するものであります。市長は常々、「市民のためでなく、市民にとってどうあるべきか」と言われます。市民と同じ目線で物事を捉えていく姿勢であり、市民とともに諸課題に取り組んでいくなら、必ずやよい結果に結びつくものと考えます。私も議員の立場から同じ目線で行動し、市民の福祉向上につながるよう協力していく所存であります。

それでは、通告に従い質問に入ります。

最初は、米価の動向について質問を行います。

9月に全農青森県本部から本年度産米の概算金が発表されました。つがるロマン60キログラム当たり7,600円、まっしぐら7,300円と前年産を3,200円下回り過去最低となりました。稲作農家にとっては、出来秋を迎えほっとするどころか不安を感じずにはいられない状況下にあります。米余りがもたらした結果でもあります。今後の稲作はどうなっていくのか不安を感じずにはられません。ここで、本年度産米の動向と市の対応についてお尋ねいたします。

1点目は、概算金と調整金、1俵当たりの見込み収入、本市でのナラシ対策の加入率についてお尋ねいたします。

2点目は、15年度からナラシ対策の規模要件が解除されることに伴う加入促進について、本市の考え方をお尋ねいたします。

3点目は、稲作農家に対し、県・農協が支援策を検討していると報道されておりますが、本市の対応についてどのようにお考えかお尋ねいたします。

次に、旧松の湯建設事業についての質問に移ります。

旧松の湯再生事業は、町なかの活性化、特に、こみせ通りの景観整備、交流人口の増加を見込んで行われる事業であります。私もこの事業に賛成してきましたが、ここきて事業費がかかりすぎているのではと感じているところでもあります。事業計画当初の説明では、事業費はおよそ2億円、うち50%が国からの補助と聞いた記憶があり、町なかの活性化には仕方ないとの思いでありました。しかしながら、現在、事業が進むにつれ、駐車場の土地購入など関連事業費を含めると、3億円を優に超える事業になっております。なぜこのようになったのか。経費

がかからないよう、計画変更等の検討がなされなかったのでしょうか。この財政難の本市にとって、多額の税金を投入することは、他の事業、また、これからの事業に影響してくるわけがあります。このような観点から、この事業に対してお尋ねいたします。

アとして、当初計画との対比についてお伺いいたします。

1点目は、新年度当初予算に対して増額になっておりますが、内訳と経緯についてお知らせください。

2点目は、この事業の土地取得から落成までの見込みの事業費をお知らせください。

3点目は、個々の事業に対する国の補助率をお知らせください。

イとして、落成までのタイムスケジュールと施設の内容をお知らせください。

次に、市役所本庁舎についての質問に移ります。

市役所本庁舎は昭和43年12月28日に落成し、46年がたとうとしております。現在、本市で使用されている鉄筋コンクリートづくりの建物では一番古く、壁のクラック、床のへこみなどが目立ち始め、電算機室は数年前に新たな建物に移転しております。誰が見ても老朽化し、危険な建物であると感じていると思います。平成23年3月に発生した東日本大震災時には、本庁舎から真っ先に外へ避難した方が多く見受けられ、私は建物の中にいましたが、ぎしぎしときしむ音がし、もう少し震度が強かったらどうなっていたことか。倒壊していたかもしれません。このような中で、なぜ耐震診断を行わないのでしょうか。市役所本庁舎は多くの市民が出入りし、行政を司る多くの職員がいる重要な公共建築物であり、震災で倒壊したなら行政の停滞を招くことは必至であります。一刻も早く耐震診断を行い、その結果に基づき対応を検討する必要があるものと考えます。このような観点からお尋ねいたします。

アとして、市役所本庁舎の耐震診断はいつ行う予定であるかお知らせください。

イとして、診断結果から危険と判断された場合の対応について、どのように考えているのかお尋ねいたします。

次に、再生可能エネルギー等導入支援基金事業についての質問に移ります。

この事業について何度かこの議場で質問を行っておりますが、平成27年度で最後の事業となります。本市への配分額はおよそ2億円、全額補助金の事業であります。今年度予算では、黒石市避難施設再生可能エネルギー等導入事業工事費に、1億5,606万円、設計業務に787万3,000円、管理業務に325万円の予算を計上しております。先般、この事業は黒石市社会福祉センターきずなに太陽光発電施設を設置し、施工に着手したところであります。ここで、この事業についてお尋ねいたします。今年度分の事業費と、今後の計画をお知らせください。

以上をもちまして、壇上からの質問を終わります。御静聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 北山一衛議員にお答えいたします。

私からは米価の動向についてのうちの、次年度に向けたナラシ対策の本市の加入促進について、また、青森県及び農業者団体による農家支援策の本市の対応についてお答えいたします。

米・畑作物の収入減少影響緩和対策、通称ナラシ対策とっておりますけれども、この本市の加入促進につきましては、米価下落にかかわらず、経営安定のためにも積極的に取り組む姿勢が必要と考えておりますので、未加入者について、ナラシ対策への積極的な加入促進を図っております。ただし、次年度から規模要件を解除し、認定農業者、集落営農組織、認定就農者が対象となりますので、自らの農業の5年後の目標やその達成に向けた取組などを内容とする、農業経営改善計画が作成できるよう指導・助言し、認定農業者、就農者の誘導に努めてまいりたいというふうに考えております。

次に、青森県及び農業者団体による農家支援策の本市の対応についてであります。米価の下落が稲作農家の生産意欲や地域経営に及ぼす影響は非常に大きいものと考えておりますので、青森県市長会初め、青森県、農業者団体と連携し、金融対策も含めできるものから取り組みたいというふうに考えております。

なお、10月16日に開催されました東北市長会の総会におきましても、米価下落対策として、農家への支援強化や、米の需給対策を国に求める特別決議を採択したところであります。私からは以上です。

降壇

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは、市役所本庁舎について、耐震調査についてお答えいたします。

市役所庁舎の耐震調査については、これまでの一般質問で御答弁申し上げておりますとおり、平成21年度に策定した黒石市有建築物耐震化計画により、平成28年度に実施予定となっております。また、危険と判断が出た場合の対応でございますけれども、国から平成28年度末まで求められている公共施設等総合管理計画等で協議してまいりたいと、そのように考えております。

次に、再生可能エネルギー等導入支援基金事業についてお答えいたします。

平成26年度、黒石市避難施設再生可能エネルギー等導入事業の全体事業費については、先ほど議員が申したとおり黒石市社会福祉センターきずなに太陽光パネルの設置と蓄電池を整備するものでございますが、設計・監理料が約1,040万円、工事費が1億2,603万6,000円であります。平成27年度の事業計画につきましては、当市に配分されている2億円から今年度分の事業費を

差し引いた約6,356万3,000円の事業費であり、避難施設に指定されております学校施設を計画しております。以上です。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、本年度産米の米価の動向に関連して26年産米の収入見込み額と、ナラシ対策及びナラシ円滑化対策の本市の加入率についてお答えいたします。

農林水産省の8月末の試算では、全国的な豊作基調と米余りの影響で、60キログラム当たりの価格は、流通経費等を含めまして1万1,830円と推測され、米・畑作物の収入減少影響緩和対策、いわゆるナラシ対策の発動基準は津軽地域で1万4,109円と試算しておりますので、標準的収入額より、2,279円下回ると予想されています。国は、水稻作付面積4ヘクタール以上の認定農業者または集落営農であって、経営所得安定対策に加入しており販売を行う予定の経営体を対象として、収入減少による農業経営への影響を緩和するため、農業者自ら積立金を行い加入するナラシ対策を実施しているわけです。ナラシ対策の加入率は、したがって経営所得安定対策に加入している876軒のうち、要件を満たすのは50経営体で、そのうち37軒が加入し、74%となっております。

また、ナラシ対策に加入できない経営体に対し、26年産米に限り実施されるナラシ円滑化対策の加入率はナラシ対策を除いた839軒で、これは100%となっております。ただし、ナラシ対策・ナラシ円滑化対策の平成27年4月中に予定されている申請に当たっては、販売伝票の写しや農産物検査結果通知書等の確認書類の提出が求められますので、ひょっとしたら100%にならない場合もあります。26年産米価が25年産米価を下回るのは確実視されておりますので、同対策が発動されれば、ナラシ対策に申請した経営体には、あくまで現時点での試算でございますが、60キログラム当たりで標準的収入額より下回る2,279円のうち9割、2,051円が国からの交付金75%と農業者の積立金25%の割合で補填されるということになります。ナラシ円滑化対策に申請された経営体は、積立金がありませんのでナラシ対策の国費相当分2,051円の75%のさらにそのうちの5割の768円が補填されるという試算になっております。なお、両対策に係る補填は、今のところ平成27年6月頃に実施される予定となっております。以上です。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは、旧松の湯建設事業についてお答えします。

まず、当初計画との対比についてですが、旧松の湯の工事請負費が、当初予算2億4,625万3,000円から2,647万円増加した経緯については、公共工事設計労務単価や建設資材等の価格が、ともに平均で7%ほど上昇していることに加え、土蔵の土壁の崩落により、当初、補修で見込

んでいたものから、建築することとなったためです。

次に、旧松の湯再生事業に係る総予算額ですが、土地建物の取得に2,200万円、設計や管理に2,836万1,000円、建築工事に2億9,460万7,000円、合計で3億4,496万8,000円となる見込みで、一部を除き文化庁の補助事業として行われており、補助率は2分の1で、金額にして1億6,989万4,000円を見込んでおります。

次に、今後の予定についてお答えします。落成までのタイムスケジュールですが、現在行われている再生2期工事の工期は、平成27年3月20日となっておりますが、今回追加する防災事業等により、非常に厳しいスケジュールとなっております。このことから、オープン時期については、工事の進捗を見ながら検討したいと考えております。

施設の内容についてですが、まず観光拠点としては、観光案内所、観光展示室、休憩所等があり、観光客への情報提供や休憩の場として使うことができます。

次に、防災拠点としては、中町地区伝統的建造物群保存地区を守るための易操作性1号消火栓や防火水槽を備え、また、災害時には地区住民の避難場所としても活用できるものと考えております。

地域コミュニティの拠点としては、市民展示室や談話コーナー等があり、中町地区を初め、市民の憩いの場として、にぎわいのある施設とすることを考えております。

ほかに大石武学流庭園や、テナントなど多目的に利用可能な土蔵のほか、多目的トイレや授乳室など、訪れた人が快適に過ごすことができるように整備する予定でございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。14番。

◎14番（北山一衛） 御答弁ありがとうございました。

まず、順番に沿わなくてですね、早く処理できる問題からやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

まず、市庁舎の問題であります。市役所本庁舎の耐震診断につきまして、28年度に行うという予定をお聞きしまして、私思うにですね、なぜこの市役所本庁舎だけ後回しにされてきたのか。学校関係は小学校・中学校は耐震診断を行って、本当に危険な建物、東小学校は大分前に新築されております。東小学校は昭和42年の4月1日に落成しておりますので、この本庁舎と1年半ぐらいしか変わらないわけでありまして。それでいながら、なぜこの本庁舎の耐震診断をずっと先延ばししてきたのか、そのことについて市役所の考え方、今までの経緯、考えありましたらお知らせ願ひたいと思ひます。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 議員御指摘のとおり、黒石市有建築物耐震計画ではまずは学校、公民館等を優先して、市役所庁舎の耐震化は最後に実施するという計画でございます。今後、市役所庁舎の前にですね、各児童館等ございます。そういうところもやっていかなければならない。それから、ほるぷ子ども館もですね。そういうところが先に実施していかなければならないということで、一番最後に市役所の庁舎ということでございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） 児童館もわかりますけども、児童館はほとんどが平屋建てで、木造であります。私、大分前にですね、黒石幼稚園の問題で、建物が耐震診断を行って、危険だけでも、今教育部長さんも頷いておりますけども、平屋の木造づくりは耐震診断が悪い方向に出てもある程度もつんだという答弁をいただいております。それよりは、まずはこの本当に重要な、市で一番重要な建物をまずは耐震診断すべきだと思うんですけども、何でこのように後回しにしてくるのかという、そこをちょっとお聞きしたいと、財政問題なのか何なのか。そして、もし財政問題か、それでなければもし本当に危険だと、すぐ出て行かないといけないということになればその後が大変なのか、その点について考えをお伺いしたいなと思います。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） もちろん財政問題も当然その中に入っておりますし、その他もろもろの事情、例えばみんな出て行くと、こうなった場合、非常に大変になるわけです。当然、今後プロジェクトチームなり立ち上げて、当然それは検討していかなければならない、早急にやらなければならぬ問題だとは認識しております。以上です。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） 今の御答弁をお聞きしまして、28年度に行うと、耐震診断。前倒しできないものか、考えはないかちょっとお伺いしたいと。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 今のところは28年度に実施したいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） 大変な問題ですね。その前に、私も壇上で質問をしたときにですね、本当にこの庁舎見ましても、誰もが本当に危険だと思うんですよ。震災後クラックがますます大きくなってきてる。そして床のへこみ、御存知だと思うんですけども、議会事務局の前のへこみ、そしてたぶんビー玉置くとコロコロと転がっていくような、この建物だと思うんですよ。それでいながらやらないというのは、本当にこの市役所の市長を初め、市民の安全、市役所の職員の安全を守るという気があるのかということを実際に疑問に思うんですよ。それを思うならば、やはりすぐにでもやるべきだと思うんですけども、その辺の考えをお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 副市長。

◎副市長（玉田英佐男） 十二分に理解しております。しかし、財政状況もろもろを考えるならば、議員と考えは一緒ですが、現時点ではすぐにやれるという状況にはありません。はっきり言って市役所を新しく新築ということではありますけども、現時点ではすぐに建てるということではできませんので、その辺御理解いただければと。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） 私は市役所を建てるという話はしておりません。これは、次の今後の問題でちょっと取り上げようかなと思ってるんですけども、お金が財源がないからということをおっしゃいました。先ほど、総務部長さんから、先に児童館等やらないといけないと、それより先にこっちをやるべきだと私は思うんですよ。そして、お金がないわけではないわけでありませぬ。幾らかかるか、診断はわかりませんが、たぶん1,000万円、2,000万円、そんな問題だと思うんですけども、基金があるわけでありませぬ。やはり、その基金を使ってでもですね、やはり皆さんの安全を守るということが最優先ではないでしょうか。その辺の見解をもう一度お聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 副市長。

◎副市長（玉田英佐男） 財源というのは財調のことを言ってると思いますが、財調も決して現時点では裕福な状況にございませぬ。ですから、その辺を勘案するならば、総務部長は役所の前に子供たちの安心・安全のためにも児童館とかそっちを選択して、28年度市のほうの庁舎ということでお答えしてると。ですから、私どもとするならば、それらも総合的に勘案しながら広い視野で多方面から検討し、庁舎を建てるということは言ってませぬけども、私どもでは将来そういうのも視野に入れなければいけないという状況を御理解いただければと、このように思います。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） やはり話がちょっとかみ合わないようでありまして、やはりさっきも言いましたけども児童館よりはこっちが大切だと、児童館は診断しなくても木造だとある程度もつということもありますから、その辺を十二分に踏まえて、これから御検討してください。何とかよろしくお願ひしたいと思います。前倒しをお願いします。あと答弁はいりませぬ、この問題に関して。

次にですね、今後の問題につきまして、やはり危険だとなりましたら、今副市長さんがおっしゃいました、建て替えないといけないという考えであると思ひます。私は建て替えるより、やはり将来的にどうあるべきか、これから学校の統廃合とか行われてきますと、今まである学校が、使用状況これから考えていくと思ひますけども、それも活用できるんではないかと。や

はり市民の不便さを感じれば違うところに市役所を移せば大変不便になります。ですから、市民の不便さをのこすためにも、第2庁舎に市役所の窓口を移して、そしてあとは窓口でない業務を行っている人たちはそういうところに、市の空いた建物に移って仮住まいするという方向性も考えられるわけですから、その辺を検討材料にしてもらいたいとの思いであります。こういうことがね、今後の計画ね、重要だと思うんですけども、所見ありましたらお伺いしたいと思えます。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 私も7月18日に市長に就任させていただきまして、いろいろ市の財政状況、また、優先順位等々、いろんな部分で内部でも協議しながら、今も現在、来年度の予算に向かおうとしてるんですけども、市庁舎もですね、北山議員お話のように危険だろうなという予想のもとで、いろいろ思案もしているのも現実であります。ただしかし、今の財政状況ではですね、一応27年度全企業会計も全ての会計が黒字化のめどは立ったというものの、現実にはですね、大変厳しい環境であります。先ほど来、学校の適正配置等々の話もありましたけども、これも結果的にはですね、財政の状況が厳しいがゆえに延ばさざるを得ない部分はあった。結局1つ1つの今抱えてる問題が全て財政を考えると、決断せざるを得ない部分がたくさんあるわけでありまして。そういう中においての、市庁舎の安全という部分においては、実際ここは市民も集う場所でありまして、当然私自身も優先的に考えなければいけないわけでありまして、ただしかし優先度合いというものを鑑みながらもですね、これからも市庁舎に対しては常に思いを持ちながらいろんな知恵を出し合ってますね、少しでもその不安を払拭できるようにこれから努めていきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） この問題は将来のことですので、これからの問題ですので、十分に市長さんを中心に知恵を出し合ってよい方向に向けてもらいたいと思えます。市庁舎の問題はこれで終わりたいと思えます。

続きまして、次に、再生可能エネルギー関係でございますが、ようやく事業が始まって、今事業がなされると、当初私が望んだ事業とは方向性はちょっと違いますけども、一生懸命今やられてるということで、早く設置をお願いしたいと、そこであと残りのお金が六千数百万ほどあるということで、これの使用に学校関係を考えてるということでありますけども、学校はどここというか、中学校なのか小学校なのか箇所数と、あと太陽光パネルだと思うんですけどもその規模を今の計画してるところでお聞きしたいと思えます。あと金額。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 27年度の計画につきましては、今のところ、まだ検討委員会立ち上げ

てお話ししている最中でありまして、2カ所の学校施設を選定中でありまして。規模については15キロワット程度ということでございます。失礼しました。太陽光10キロワットでございます。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） ありがとうございます。学校2カ所と、早く計画をして、来年度事業最後ですので行ってもらいたいと思います。この2カ所をつくって、この六千数百万円で間に合うのかということですが、残ったお金、確認なんですけれども六千数百万円残っていると、この六千数百万円で2カ所やるということで、これで間に合うんでしょうかお金、聞きたいと思います。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 県のほうから2億円の割り当てありますので、それは全部使い切るということにしております。以上です。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） 私は前回の質問でもですね、もし2億円で足りなければ足出た分でも何とかプラスして事業行ってもらいたいということを行ったわけでありまして、その辺の考え方、今現在の、やる考えはあるのかということをお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 全部使い切るということですので、若干の一般財源であるかもしれませんが、んけれども全部やっていきたいと、そのように考えております。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） よろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、米価の動向についてに移りたいと思います。

本市のナラシ対策の加入率、今年度産の米価についてお聞きしましたが、大変下がって農家の今、大変な状況にあると思います。私の家でも農家でありまして、この概算金を聞いたときには愕然としました。そして今、これからナラシ対策のお金が入ってくるということでありまして、それでもですね、経営的にはやはり赤字かなと、生産組合等とおして支払うお金、そして土地改良区のお金等を換算すれば大変な問題であると。このことによって農家の生産意欲がだんだんと衰退していくということを考えればですね、黒石の稲作は大変な状況になっていくのではないかとことを思っております。今年度こういうことになると、来年度またもしかすると下がっていくと、そうするとナラシ対策の、ナラシのお金、補填金がほとんど意味をなしてなくなってくると。もう米の値段が安い値段が常態化してくるとということが懸念されてくるならば、本当にこれからの稲作農家は大変かなということを思います。ですから、

本来ならばこのナラシ対策に加入すべきであるということを思いますけども、これからずっと長い目で見ると、入ってももう意味がなくなってくるのではないかとということもありますので、やはりこれからの農業に関しての計画が結構変わってくるということもありますので、私自身どのように変わっていくのか今は想定できませんけども、市として稲作農家を守っていく、そしてこれからの稲作を発展させていくためにも、これから計画を立てていかないといけないのではないかとということもありますので、この辺を十分加味しながら検討してもらいたいと思います。これに対して答弁は特にいりません。皆さんが本当に大変になっていくなということでもありますので、市の立場といたしましても農家の目線に立って、これから守っていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

最後となります。旧松の湯の建設事業についての質問に移りたいと思います。

壇上で質問したとおり、事業費が私当初考えていたより大分かさんできたということで、このことも今までの質問内容、特にお金がないと財源がないということにもつながってまいります。これだけお金が使われると、ほかの事業ができないということにもつながってくるので、本来ならばいろんな事業を行っていくに当たって、これだけお金がかかるんだったらやはり見直しをかけていくとか、そのためにP. D. C. Aサイクルがあるわけでありまして、それを活用してほしかったなと思うわけでありまして、その点について御見解ございましたら、ちょっとお伺ひしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 先ほども申しましたとおり、当初の金額に対して、大震災の後からですね、工事の設計労務費単価や建築資材の高騰、人件費の高騰等がまずは想定できなかった。それと、松の湯の土蔵なんかもですね、想定したより崩れてしまって修復がなかなか困難な状況とか、それこそ当初の予定よりも非常に状況が変化したということもございます。見込みが甘いというよりも、そこまでなかなか想定はできなかったということもございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） 先ほど答弁にありましたけども、土蔵が崩れてきているということで、建て替えをするということをお聞きしました。それがですね、今の2期工事の当初の契約請負費に入っていたのかいなかったのかについてお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 少し入っているということもございます。

◎議長（村上啓二） 14番。

◎14番（北山一衛） 少し入っているというのは、ちょっとあんまり理解できませんけども、そ

れでいて今回また追加補正で、今の工事費、2期工事の当初契約から追加補正で、また四千数百万円ほど追加されているわけであります。その中には、土蔵の解体、そして新設と、そのほかにいろんなポンプ施設とか庭工事とかで追加されているわけでありまして、その問題に関しましては、私ちょっとね、この中とちょっと外れるかなということも考えますので、今質問はこの場では差し控えたいと思いますけども、議案124号でちょっといろいろと伺ってみたいと思います。やはり契約問題、今ちょっと答弁はいりませんが、あの追加補正で、たぶん随契だと思うんですよ、追加補正は、中身は。入札やったのかやってないのか。入札やっていなければ随契というのは……

◎議長（村上啓二） 北山議員、おたくが今言ってることはですね、議案の124号にありますので一般質問の中で各論で問うということはちょっとなじまない。そちらのほうでこのことを質疑してくださるものであるというふうに議長は考えますが、そういうふうにしていただきたいと、こう思います。よろしくお願いします。

◎14番（北山一衛） わかりました。一応、答弁はいりませんがこの契約問題に関してちょっと疑義を感じるということですので、その辺の見解を本会議のときにお伺いしたいと思いません。

最後に、落成までのタイムスケジュールということで、平成27年3月を見込んでいます。今工期が大変厳しい状況にあると。それで先延ばしされるかわかんないということでもあります。特に27年にこだわることなく、これからもですね、やはりしっかりしたものをつくっていただきたいということもありますので、ちゃんとした計画のもとにちゃんとしたものをつくっていただきたいということもあります。そしてまた、これにあわせて使用条例とか条例も制定されると思いますけども、それに関しての所見を日程等、いつ頃になるのか、どのように考えているのかお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 日程は先ほど3月20日までとなっておりますけども、議員御指摘のようにきちんとした形で進めてまいりたいと思います。

また、オープンに関しての条例等の整備も、きちんと整備して提示したいと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、14番北山一衛議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 本日はこれにて散会いたします。

午後 2時56分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成26年10月21日

黒石市議会議長 村上啓二

黒石市議会議員 大溝雅昭

黒石市議会議員 山田鉦一